

2026

4月-6月

Vol. 102 No.2

安息日聖書教科



預言の本質的要素

ダニエルとヨハネの預言的働きを研究する

目次

1. 預言への序章	5
2. 王に対する神からの使命者	10
3. 将来の帝国が明らかにされる	15
4. ダニエルの最初の幻	20
5. 王国の継承	26
6. 説明された幻	31
7. 封じられた書が再び開かれる	36
8. パトモス島の預言者	41
9. 龍、女、残りの民	46
10. 獣と刻印	52
11. 三天使	57
12. 最後の召し	62
13. 予告された終わり	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科
Vol.102, No.2

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.
com

イラスト : Italian Church,
Côte D'Ivoire Mission,
Prague Church, H. Cibalde

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

聖書はわたしたちのために靈感を受けた案内書として記され、神聖に保存されてきました。そこにある物語は、わたしたちの個人的な生活やわたしたちの生存している時代のための数えきれないほどの教訓を提示しています。諸国家の歴史や神の民の歴史を通じてなされた神のみ働きの記録は、わたしたちを励まし、神の愛をわたしたちに保証してくれます。そして最も貴重な証—イエスのご生涯とメッセージの記録—は、わたしたちのうちに神への愛を呼び覚まします。なぜなら、「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである」（ヨハネ第一4:19）です。

聖書におけるわたしたちの神の驚くべき局面の一つは、このお方の予知です。このお方は「終りの事を初めから」ご覧になることができます（イザヤ46:10）。これにより「神は、神を愛する者たち、…万事を益となるようにして下さること」ができます（ローマ8:28）。こればかりではなく時々このお方は、ご自分の民に「すぐにも起るべきこと」を明らかにすることを選ばれます（黙示録1:1）。これこそ、わたしたちにこのお方の愛とこのお方のみ摂理への信頼を与えるものであり、また聖書が靈感を受けたという証拠の一つです。預言は歴史のページと明らかにされた現在のできごとにおいて一貫して成就しているという事実は、神のみ言葉が人間の発明上のものであることを示しています。

預言は神の子らにとって命にかかわるほど重要なものです。このお方の祝福は、「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たち」とに宣言されています（黙示録1:3）。

預言者たちの著書の中で、歴史の詳細と体系だった概要を予告しているものとして二つが際立っています。ダニエルとヨハネはこれらの特別なメッセージを委託されました。そして彼らの書物、ダニエル書と黙示録に、安息日聖書教科の今期、焦点をあてていきます。

これから三か月間、安息日学校の生徒たちはダニエルとヨハネの物語を研究し、彼らが記録した預言の重要な部分をいくつか研究します。これらは再臨のメッセージと過去及び現在の霊的、また政治的運動を理解するための枠組みを示しています。

今期で両方の本のすべての部分を網羅するには、十分な紙面がありませんが、生徒たちはそれらの全体的な内容を、聖書の他の部分との関係や、つながりと共により深く研究するよう奨励されています。

安息日学校の生徒も教師もこれらの預言の詳細を理解するのに、手に入れられる最上の資料の一つは、ユライヤ・スミスによる古い本で、ダニエルと黙示録講解があります。今期を通じて研究する一助として是非お勧めします。

皆さんがこれらの預言の研究によって祝福を受けますようにというのがわたしたちの祈りです。なぜなら、実に「時が近づいている」からです（黙示録1:3）。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 イタリアフィールドのための本部

地中海の中心部に位置する美しい国、イタリアは、その古代史、比類なき芸術、絶品料理、息を呑むほど美しい景観で世界中に知られています。世界有数の観光地であるだけでなく、重要な工業・農業生産地でもあります。6,000 万人以上の人口を抱えるイタリアは、憲法によって信教の自由を保障しています。しかしながら、カトリック教徒が人口の 74% を占め、依然として主要な信仰であり、次いで非カトリック教徒が 9.3%、そして近年の移民流入によりイスラム教徒が 3.6% と増加しています。これに続いて他の宗教的少数派が続き、無神論や不可知論も増加傾向にあります。

SDA 改革運動のメッセージは 1926 年にイタリアで初めて宣べ伝えられました。最初の改革運動のグループが組織されたのは 1939 年から 1940 年にかけてでした。1990 年代に入り、南米、ポルトガル、そしてルーマニアから宣教師が到着したことで、この活動は発展し、イタリア各地にグループが設立されました。それ以来、メッセージは粘り強く宣べ伝えられ、領土内の様々な場所で定着してきました。現在、6 つの教会、2 つのグループ、そして孤立した人で 130 人以上の会員がいます。

現在、わたしたちの教会は、国内の遠い北東部に位置するトリエステ市に一つしかありません。しかし、信徒たちの力と霊的成長の柱となる戦略的な場所が緊急に必要であると考えています。

この場所はフィールドの本部となり、地理的に中心的な位置にあることから、セミナーを通じた青年たちの伝道訓練、音楽プログラム、健康に関する会議を中心とした伝道事業、また植物由来の料理教室など、計画されている活動に多くの兄弟姉妹が参加できるようになります。この場所はイタリアにおける主の御業の推進に不可欠なものとなると信じています。世界中の兄弟姉妹、そして友人の皆様には、献金を通してこの取り組みを惜しみなくご支援くださいますようお願い申し上げます。

イエスの恵みと皆様のご協力により、わたしたちはこの目標を達成し、この国における福音宣教を強化し、より多くの魂に救いのメッセージを伝えていきます。主が皆様を祝福し、豊かに報いられますように。

イタリアフィールドから皆さんの兄弟姉妹より

預言への序章

暗唱聖句：「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。」（ペテロの第二の手紙 1:19）

推奨文献： 各時代の争闘下巻 358-370

「歴史と預言は、全地の神がご自分の選ばれた世に光を担う者たちを通して秘密をあらわしておられることを証している。」（聖書訓練学校 1912 年 12 月 1 日）

1. 無限の思い

日曜日 3月29日

a. 神だけが何をご覧になることができますか（イザヤ書 46:9, 10）。

「わたしは在るとは、永遠の臨在を意味する。過去、現在、将来は、神にとって同様である。このお方は、わたしたちが日々起きる出来事を見ているように、過去の歴史の最も遠い出来事も、また遠い先の将来もはっきりとした視力をもってご覧になる。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホット・コメント] 1 巻 1099）

b. わたしたちの主はこの知識をもって何をなさいますか（ダニエル書 2:20-22）。

「神はそうぞうしいこの世界の上に王として君臨なさっている。神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる、静寂な永遠のかなたから最善とみられるところを命令されるのである。（ミストリー・オブ・ヒーリング 391）

「人類の歴史の記録の中では、世界の諸国民の発展や諸帝国の興亡は、人間の意志や勇気に左右されているかのようにみえる。いろいろな事件の形成は、その大部分が人間の能力や野心やあるいは気まぐれによってきまるかのようにみえる。しかし神のみ言葉である聖書の中には幕が開かれていて、われわれはそこに、人間の利害や権力や欲望の一切の勝ち負けの上に、また背後に、あるいはそれを通して、あわれみに満ちた神の摂理が、黙々と忍耐づよくご自身の目的を達成するために働いているのを見るのである。」（国と指導者下巻 108）

- a. 神は、ご自分のみ旨をこの地上で実行なさる準備ができたとき、何をなさいますか (アモス書 3:7; ヨハネの黙示録 1:1)。

『まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされぬ』『隠れた事はわれわれの神、主に属する』が、『表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属』するのである (アモス書 3:7、申命記 29:29)。神はこれらのことをわれわれにお与えになっており、神の祝福は、預言の書を祈りのうちに、敬虔な思いで研究する者に伴うのである。(各時代の希望上巻 288, 289)

- b. 神はなぜ、そのようなメッセージを送られるのですか (ヨハネの第一の手紙 3:1; ヨハネによる福音書 1:12; コロサイ人への手紙 1:25-28)。

「聖書はすばらしい書物である。それは私たちに過去何世紀も開いて見せる歴史である。聖書がなければ、過去の時代の出来事に関して、憶測と寓話のままに取り残されていたことであろう。それは将来を明らかにする預言である。救いの計画をわたしたちに明らかにする神のみ言葉であり、わたしたちが永遠の死をまぬかれ、永遠の命を得るための道を指し示している。世にあふれているすべての書物の中でどんなに価値があろうと、聖書こそ書物の中の書物であり、わたしたちの研究と称賛に最もふさわしいものである。それはこの世の歴史を教えるだけでなく、来たるべき世界について描写する。そこには、宇宙の不思議に関する教えが含まれている。それは天地の創始者のご品性が、わたしたちの理解力に対して明らかにされている。聖書の中に、人に対して神の啓示がある。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年1月30日)

- c. わたしたちが求めるべき最も重要な知識は何ですか (エレミヤ書 9:23, 24; ヨハネによる福音書 17:3; エペソ人への手紙 3:17-19)。

「思いが最も深い思想、最も高い大志のための主題を見出すのは神のみ言葉の中である。ここでわたしたちは父祖や預言者たちと交わりを持ち、とこしえのお方が人に語られるときにそのみ声に耳を傾けることができる。ここで、わたしたちは天の大君が自らへりくだり、わたしたちの身代わりと保証人となって、闇の主権者たちに単独で対抗し、わたしたちのために勝利を得て下さったのを見る。このような主題を敬神の念をもって熟考するとき、心をやわらげ、純潔にし、高尚にしないではいられない。また同時に、思いに新しい力と活力を吹き込むのである。」(教会への証 5巻 25)

3. み言葉を理解する

火曜日 3月31日

- a. 預言をふくめて聖書を理解するために、わたしたちはどの助けを必要としていますか(ヨハネによる福音書 16:7-13)。

「この世の生涯においてさえ、神は真理がいつもご自分の民に明らかにされるようにと意図しておられる。この知識を得ることのできる方法は一つしかない。わたしたちにみ言葉を与えてくださった御霊が照らしてはじめて、神のみ言葉の理解を得るのである。」(教会への証 5 巻 703)

「聖書は、決して祈りをささげずに研究してはなりません。ページを開くときは、聖霊の導きを 祈らねばなりません。この導きは必ず与えられます。ナタナエルがイエスの許にきたとき、救い主は、『見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人(びと)である。その心には偽りが無い』と賛嘆の叫びをあげました。ナタナエルが『どうしてわたしをご存じなのですか』と尋ねると、イエスは『ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た』(ヨハネ 1:47, 48)とお答えになりました。イエスは、私たちが、真理を知ることができるようにと光を求めるとき、それが隠れた場所の祈りであってもちゃんとご覧になっています。心を低くして神の導きを求める者には、天使が光の世界から送られるのです。」(キリストへの道 124, 125)

- b. わたしたちが預言の研究をするときに、自分自身の意見に従うだけではないということが、なぜ重要なのですか(ペテロの第二の手紙 1:19-21)。

「みことばを研究するときには、先入観や先天的あるいは後天的な観念を、研究の門口に捨てなさい。自分の意見を擁護するために聖書を研究するのでは真理に達することができません。そうした考えは門口に捨てて、くだけた心ではいって行き、神がお語りになることばに耳をかたむけなさい。キリストの足もとにすわり、へりくだった心で真理を求め、キリストについて学ぶときに、みことばを理解することができます。聖書研究に自信のある賢い人に向かってキリストは、救いの知恵を得たいならば柔和で心のへりくだった者になりなさいと仰せになります。

既成観念に照らして聖書を読まないで、偏見を心からとり去って、注意深く祈りのうちに聖書を調べなさい。読んでいて、ある確信に到達し、自分がこれまで抱いていた意見がみことばに一致していないことがわかったら、みことばを自分の意見に従わせようとしてはなりません。自分の意見をみことばに一致させなさい。過去の信念や習慣によって理解力が支配されてはなりません。心の目を開いて、おきての中から驚くべきことを見いだしなさい。そこに何が書かれているかを見いだし、永遠の岩の上にしかりと立ちなさい。」(青年への使命 256, 257)

- a. 神はご自分のみ言葉をどのようにお与えになりますか。またわたしたちはそれをどのように研究すべきですか（イザヤ書 28:9, 10）。

「神のみ言葉の真理の証拠のみ言葉自身のうちにある。聖書こそ、聖書をひもとく鍵である。神のみ言葉の真理の深い意味は、聖霊によってわたしたちの思いに明らかにされている。」（教会への証 8 卷 157）

「それらの原則は、どんな人にも理解できるのである。聖書の教えを理解しようとする心がけさえあれば、その一節を読むだけで必ず何か有益な思想を得ることができる。しかし時々思い出したように断片的に聖書を研究したのでは、その最もよい教えを得ることは不可能である。聖書を急いで不注意に読む人は、そこに提示されている大きな真理の体系を認めることができない。真理の宝の大部分は、表面下に深くうずもれていて、熱心な探求とたえまない努力によってのみ、これを手に入れることができる。われわれは大きな全体を構成しているところの数々の真理を、『ここにも少し、そこにも少し』さがし出して集めなければならない（イザヤ 28:10）。

「このようにざぐり出され、集められた真理は、互いに調和していることがわかる。四福音書はおのおの互いに補足し合い、一つの預言は他の預言の説明であり、一つの真理は他の真理の発展である。ユダヤの制度の型は、福音によって明らかにされている。神のみ言葉の中にあるすべての原則はそれぞれに立場を持ち、すべての事実はそれぞれの意義をもっている。こうして全体の構成は、計画においても実行においても、その創始者である神について証言している。このような構成は、ただ限らない神の知恵だけが考え出すことも作りだすこともできるのである。」（教育 132, 133）

- b. 聖書の一節一節がなぜ重要なのですか（マタイによる福音書 4:4, ルカによる福音書 24:27）。

「聖書の教えていることについては、人のあかしに頼ったりせずに、自分で神のみ言葉を研究しなければならない。... 尊い脳力も、集中して思考する価値ある問題がないために萎縮し、ついには、神のみ言葉の深い意味を悟る力を失ってしまう。聖句と聖句とを対照して、聖書の問題がどう関連しているかを研究するならば知力は必ず発達する。...

「熱心に祈りと共に学ばなければ、知恵を得ることはできない。聖書にはわかりやすく書かれていて間違え余地がないところもあれば、また表面に意味があらわれていなくて、ひと目見ただけでは少しもわからないところもある。聖句は聖句とよく比較して、注意深く研究し、祈りのうちによく考えねばならない。そのような研究は豊かに報いられる。鉱夫が地下深く掘り下げて、かくれている尊い鉱脈を発見するように、辛抱強く、神のみ言葉を隠れている宝のごとく捜すならば、不注意な探求者の目にはとまらぬ価値ある真理を発見することができる。そして、心の中で熟考された靈感によるみ言葉は、いのちの泉からわきでる流れのようになります。（キリストへの道 122 - 124）

- a. わたしたちの態度とわたしたちの選択は、どのように預言の意味を識別するわたしたちの能力に影響を及ぼしますか(ダニエル書 12:10; テモテへの第二の手紙 3:1-8)。

「あなたがどの精神をもって聖書を調べようとするかが、あなたのかたわらに立つ助手の性質を決める。光の世界からの天使は、神聖な導きを求める心のへりくだりのうちにある人々と共にいる。しかし、もし聖書が不敬や、自己満足感をもって開かれるなら、もし心が偏見で満たされているなら、サタンがあなたの傍らにいて、彼が明白な神のみ言葉の記述を、歪んだ光のうちに置くのである。」(牧師への証 108)

「サタンは、ダニエル書とヨハネが書いた黙示録の預言的部分は、理解することができないと多くの人々に思い込ませている。しかし、これらの預言を研究する者には特別の祝福が与えられると、明らかに約束されているのである。」(国と指導者下巻 157)

- b. 真理を個人的に適用する重要性を説明しなさい(ヨハネの黙示録 22:7; マタイによる福音書 7:24-27; ヨハネによる福音書 7:17)。

「柔和な者は、すなおで、喜んで教えを受けるから、主に導かれるのである。彼らは神のみこころを知って行なおうと、まじめに願っている。救い主は、『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、……この教が……わかるであろう』と約束された(ヨハネ 7:17)。そして、使徒ヤコブによって『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう』と宣言された(ヤコブ 1:5)。しかし、主の約束は、快く主に全く従う者にだけ与えられる。」(人類のあけぼの上巻 460)

「もしあなたが信心の奥義を知りたいなら、その気になってもならなくても、気持ちがあろうがなかろうが、真理の率直なみ言葉に従わなければならない。原則を自覚し、どんな状況下でも正しいことを追い求めて、従順を捧げなければならない。」(クリスチャン教育の基礎 125)

個人的な復習問題

金曜日 4月3日

1. 知識という点から、神はどのように他の存在とご自分を区別しておられますか。
2. 神は預言者たちの書き物の中で、わたしたちに何を明らかにしておられますか。それはなぜですか。
3. わたしたちが神のみ言葉を開くとき、わたしたちはどの助けのために祈るべきですか。
4. 聖書研究において、どのような種類の努力を自ら進んでつぎ込むべきですか。
5. わたしは神のみ言葉の中に見出したことを喜んで適用しているでしょうか。

王に対する神の使命者

暗唱聖句：「この四人の者には、神は知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされた。ダニエルはまたすべての幻と夢とを理解した。」(ダニエル書 1:17)

推奨文献： 国と指導者下巻 210-224

「ダニエルと彼の仲間たちの生涯は、神に従って神のみこころを、真心から達成しようとする者のために、神は何をなさるかという、よい実例である。」(国と指導者下巻 101)

1. **バビロンにおける捕囚** 日曜日 4 月 5 日

- a. ダニエルはどのようにして、バビロンに来るようになりましたか (ダニエル書 1:1-7)。
- b. 王の食卓から食べることにに関して、ダニエルの決断から、どのような結果が生まれましたか (ダニエル書 1:8-16)。

「王の食卓から与えられた食物は、その一部が偶像にささげられたものであるから、偶像礼拝に奉献されたものであった。そしてその食物にあずかる者は、バビロンの神々に敬意を表するとみなされるのであった。ダニエルと彼の仲間たちは、主に忠誠を尽くそうとすれば、こうした敬意を表することはできなかった。…

また彼らは、体的、知的、靈的発達を阻害する快樂と浪費にふける危険を冒そうとしなかった。」(国と指導者下巻 93)

「ダニエルとその友達とは、テストされたとき、自らを完全に義と真理の側においた。彼らは気まぐれにではなく、知的に動いた。彼らは肉が自分たちの過去の食事に入ることはなかったし、これからの食事に入るべきではないと決心した。そして神の奉仕に携わるすべての人にぶどう酒の使用は禁じられていたため、彼らはそれにあずかることはしないと決心した。」(天国で 261)

- c. 試験と王の検査を述べなさい (ダニエル書 1:17-21)。

- a. 死の脅迫の下で、ヘブル人たちは、どのように第二条への忠誠に関して試されましたか（ダニエル書 3:1-15）。

「すべての者が、人間の権力を象徴する偶像にひれ伏したのではなかった。礼拝している群衆の中に、そのようなことをして天の神の栄えを汚すまいと固く決意した三人の者がいた。彼らの神は、王の王、主の主であった。彼らは他の何ものにもひれ伏さないのであった。」（国と指導者下巻 115）

- b. 彼らはどのように自分たちの信仰と従順を維持することができたのですか（ダニエル書 3:16-18; イザヤ書 43:1, 2）。

「王の脅迫はむだであった。王はこの人々の、宇宙の王なる神に対する忠誠を曲げさせることはできなかった。彼らは先祖の歴史から、神に従わないことは不名誉と不幸と死という結果を招くことを学んでいた。また主を恐れることは知恵のはじめであり、すべての真の繁栄の基礎であることを学んでいた。彼らは炉に直面しても冷静に言った。『ネブカデネザルよ、この事について、お答えする必要はありません。もしそんなことになれば、（もしこれがあなたの決定であれば）わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます』（3:16, 17）。彼らの救いによって神に栄光が帰せられるということを宣言したときに、彼らの信仰は強化された。そして彼らは神に対する絶対的信頼に基づいた大いなる確証をもって、『たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません』とつけ加えた。」（同上 116）

- c. 神は彼らの救出において、どのように栄光をお受けになりましたか（ダニエル書 3:19, 20, 24-28）。

「王は玉座から、彼に反抗した人々が全く焼きつくされるものと思って眺めていた。しかし王の勝ち誇った気持ちは、突然一変した。…であるから王は、火の中の第四番目の姿に神のみ子を認めたのであった。…

ここにおいてネブカデネザルは、彼自身の偉大さも威厳も忘れて玉座をおり…た。

…

そこでシャデラク、メシャク、アベデネゴは、大群衆の前で、その身に何の害も受けずに現れた。…大いなる壮麗さをもって立てられた巨大な金の像のことは、全く忘れられてしまった。人々は生ける神の前で恐れおののいた。」（同上 117, 118）

- a. 神はどのようにネブカデネザル王に語られましたか (ダニエル書 4:4-7)。

「このように野望と誇りに満ちて栄えている王が、唯一の偉大さへの道である、謙遜の道を離れる誘惑に会ったとしても不思議ではない。…神は王をあわれんで、彼にもう一つの夢を与えて彼の危機と、彼を陥れるために設けられたわなについて警告を発せられた。」(国と指導者下巻 123)

- b. ダニエルがついに夢を解き明かすために召されたとき、王に対する彼の助言は何でしたか (ダニエル書 4:20-27)。

「ダニエルにとって夢の意味は明らかであった。そしてその意義は彼を驚かせた。…ネブカデネザルの誇りと傲慢のゆえに、今や刑罰が彼に臨もうとしていることを告げる厳粛な義務が神から自分に負わせられたことをダニエルは自覚した。」(国と指導者下巻 125)

「ダニエルは忠実に夢の解き明かしをしたあとで、高慢な王に、悔い改めて神に立ち帰り、正義を行って切迫した災いを免れるように訴えた。」(同上 125, 126)

- c. 厳しく屈辱的な経験という手段によって、学ばざるを得なかったとき、王は、ダニエルの働きを通して、どのように神に栄光を帰すよう、導かれましたか (ダニエル書 4:34-37)。

「ネブカデネザルは七年の間、全国民の驚きの的であった。彼は七年の間、全世界の前で屈辱をこうむった。それから彼の理性が回復されて、彼は心を低くして天の神を見上げ、この懲罰が神の手によるものであることを認めた。彼は公の布告の中で自分の罪を認め、彼を回復させて下さった神の大きなあわれみを認めた。…

かつての高慢な王は、謙遜な神の子となった。暴君的で専制的な王が、賢明で恵み深い王になった。天の神に反抗して神をののしった王が、今はいと高き神の力を認めた。そして熱心に主を恐れて、国民の幸福を追求するようになったのである。

…

世界最大の王国が神をほめたたえるようになるという、神のみこころは達成されたのである。ネブカデネザルが、神のあわれみといつくしみ深さと権力を認めたこの公の布告は、聖書の歴史に記されている彼の生涯の最後の行為となった。」(国と指導者下巻 127-129)

- a. 突然、どのような劇的な出来事が、ネブカデネザルの家系であるベルシャザルが、天の神に対して冒瀆的な反逆のうちにあったときに、彼を停止させましたか（ダニエル書 5:1-6）。

「ベルシャザルは青年時代から王権を共有することを許されたので、権力を誇り、天の神に対して高慢な心を抱いた。彼には神のみこころを知り、それに服従する責任があることを理解する機会は数多くあったのである。彼は祖父が神の命令の下に、人間の社会から追放されたことを知っていた。またネブカデネザルの改心と、奇跡的回復のことをよく知っていた。しかしベルシャザルは快樂の愛好と自己称揚によって、彼が忘れてはならない教訓を消し去ってしまった。」（国と指導者下巻 130）

- b. ダニエルはどのようにもう一度、神のメッセージを異教の王に伝えるよう、導かれましたか（ダニエル書 5:8-16）。

「預言者ダニエルはまず第一に、ベルシャザルがよく知っていることを思い起こさせた。しかし彼は、彼を救うに至ったであろう謙遜の教訓を、それから学んでいなかった。ダニエルはネブカデネザルの罪と墮落、および彼に対する神の処置について語った。すなわち、神は彼に国と栄光をお与えになったが、彼の誇りは神の刑罰を招くに至り、彼はついにイスラエルの神の力とあわれみとを認めるに至った。そしてダニエルは、勇敢に力強い言葉で、ベルシャザルの大いなる罪悪を譴責したのである。」（同上 135）

- c. どのようにダニエルの解き明かしがその夜に成就しましたか（ダニエル書 5:17, 25-31）。

「王はすでに破滅の運命にある人々に取り囲まれて、なお酒宴の席にあるうちに、敵の策略にも安全であると思っていた『町はことごとく取られ、渡し場は奪われ……兵士はおびえている』と聞かされたのである（エレミヤ書 51:31, 32）。…王とその大臣たちが主の聖なる器で酒を飲み、銀や金の神々をほめたたえていたときに、メデヤとベルシャ人たちはユフラテ川の流れを変更して、無防備の都の中心に侵入していた。今やクロスの軍勢は宮殿の壁の下に立った。都の中には敵の軍勢がいなごのように満ちあふれ（同 14 節）、驚いた酒宴の客の絶望的な叫びを越えて、彼らの勝ちどきが聞こえた。」（同上 137）

- a. なぜダニエルの神に対する忠誠は、迫害という結果になったのですか（ダニエル書 6:1-5）。

「王国の指導者たちは、ダニエルが栄誉を授けられたために、彼をねたんだ。そして彼らは、彼に対する苦情を言う折をねらった。…

ダニエルの行動になんの落ち度もないことが、ますます彼の敵たちのねたみを引き起こした。…

そこで総監と総督たちは相謀ってたくらみ、ダニエルを陥れようとした。」（国と指導者下巻 148, 149）

- b. ダニエルが播らぐことを拒んだ結果、何が起こりましたか（ダニエル書 6:11-17）。

「彼は神に忠誠をつくす結果が何であるかを十分に知っていたが、ためらうところはなかった。彼は自分を陥れようとたくらんでいる人々の前で、彼と天の神との関係が絶たれたかのように見えることすら許さなかったのである。ダニエルは王に命令権のある点においては、あらゆる命令に従うのであった。しかし王であろうが、王の布告であろうが、王の王なる神に対する忠誠を曲げさせることはできなかった。」（国と指導者下巻 151）

- c. 神はなお、ご自分の僕を通して、どのように再び栄光をお受けになりましたか（ダニエル書 6:19-23, 27）。

「神はダニエルの敵が、彼をししの穴に投げ入れることを阻止されなかった。神は悪天使と悪人たちが、ここで彼らの目的を達するのをお許しになった。しかしそれは、神のしもべの救出をさらに著しいものにし、真理と義の敵の敗北を、さらに完璧なものにするためであった。『まことに人の怒りはあなたをほめたたえる』と詩篇記者はあかしした（詩篇 76:10）。御都合主義ではなくて、正義を行うことを選んだこのひとりの人の勇気によって、サタンは敗北し、神のみ名は高められ、崇められるのであった。」（同上 153）

個人的な復習問題

金曜日 4月10日

1. わたしたちは、どのように今日四人のヘブル人の賢明な選択を手本にすることができますか。
2. 試練を通して、どのようにわたしたちが強くされ、また世に対する証のための戸が開かれることができますか。
3. ネブカデネザル王は、改心に導かれるどの教訓を学ぶ必要がありましたか？
4. 今日の指導者たちは、バビロンにおける最後の夜のベルシャザルから、何を学ぶことができますか。
5. ダニエルの物語は、迫害に直面する神の民を、どのように励ますことができますか。

将来の帝国が明らかにされる

暗唱聖句：「神は時と季節とを変じ、王を廃し、王を立て、知者に知恵を与え、賢者に知識を授けられる。」(ダニエル書 2:21)

推奨文献： 国と指導者下巻 102-111

「個人の力と同様に、国家の力は好機とか、または物質的設備によって無敵と思われる強さが与えられるのでないことが示された。それは彼らの勝ち誇る偉大さにもよらない。それは彼らが神のみこころをどんなに忠実に成就するかによって量られるのである。」(国と指導者下巻 111)

1. 印象深い夢

日曜日 4月12日

- a. ネブカデネザル王は、夢に悩まされて目覚めた後、何を命じましたか (ダニエル書 2:1, 2)。
- b. 彼の尋常でない要求に、王の知者たちは、どう答えましたか (ダニエル書 2:3-7)。

「王はもし彼らが本当の解き明かしを告げることができるとすれば、夢も告げることができることを知っていた。主は、ご自分のみ摂理のうちにこの夢をネブカデネザルにお与えになったのであった。そしてバビロンの知者たちの見せかけを暴くために、具体的な部分を忘れさせる一方、彼の思いに恐るべき印象は残ったのであった。」(きよめられた生涯 34)

- c. 霊界や死後の命とのつながりを主張していたにも関わらず、これらのバビロンの賢者たちは、何を認めましたか (ダニエル書 2:8-11)。

「博士たちは、彼らが失敗したならば、どんなことになるかという恐れに満たされて、王の要求が不合理で、彼の試験はどんな人間にも求められたことのない無理なものであることを示そうと努めた。彼らは王に抗議して言った。」(国と指導者下巻 103)

- a. 知者たちが自分の夢を明らかにし、解き明かすことができなかつた失敗に対して、王は、どのように反応しましたか。また、ダニエルはどのように関わることになりましたか（ダニエル書 2:12-16）。

「王の命令の指示を実行しようとしていた役人たちが求めた者のなかに、ダニエルとその同僚がいた。王の命令に従って、彼らもまた死ななければならないことを告げられたときに、ダニエルは、『思慮と知恵とをもって』、王の高官アリオクに『どうして王はそんなにきびしい命令を出されたのですか』と尋ねた。アリオクは、王が驚くべき夢を見て、思い悩んだことを彼に語り、これまで王が最大限の信頼をおいていた者たちから、なんの助けも得られなかつたことを告げた。これを聞いたダニエルは、命がけで王の前に出て、夢とその解き明かしを示していただくために神に祈り求める時が与えられるように願った。

王はこの願いを聞き入れた。『それからダニエルは家に帰り、同僚のハナニヤ、ミシャエルおよびアザリヤにこの事を告げ知らせ』た。彼らは一緒に、光と知識の源であられる神の知恵を求めた。彼らは神が彼らをその場所に置かれたこと、そして自分たちは神の働きをなし、義務の命じることを果たしているという自覚のもとに強い信仰を持っていた。」(同上 104)

- b. ダニエルとその友達がこの時に祈っていた方法から、何を学ぶことができますか（ダニエル書 2:17-23）。

「彼らは、悩みや危険に遭遇したときには、常に神の指導と保護を仰いだ。そして神は、彼らのいと近き助けであられたのである。ここで彼らは悔い改めて、地の審判者であられる神に対する服従を新たにし、この特別な難局において彼らを救って下さるように神に嘆願した。そして彼らの訴えはむだではなかつた。彼らが敬った神が、今や彼らに栄誉をお与えになったのである。主の霊が彼らの上に宿り、『夜の幻のうちに』王の夢とその解き明かしとがダニエルに示されたのである。」(同上 104)

「[四人のヘブル人] が、神の憐れみを求めたことは、無駄ではなかつた。ダニエルが自分の友達を共に呼んで、自分たちの祈りが聞かれ、答えられたことを神に感謝したとき、彼らは賛美と感謝のささげ物を神に捧げたのであった。それは、完全に宇宙の統治者に受け入れられるものであった。[ダニエル 2:20-22 引用]。ダニエルとその友達は、賛美の集会を持ち、全宇宙は、彼らの賛美に和した。」(ユース・インストラクター 1894年11月22日)

- a. ダニエルは、彼の夢を明らかにすることに関して、ネブカデネザルに、どのように述べましたか（ダニエル書 2:24-30）。

世界最強の帝国の王の前に、沈着冷静に立つヘブルの捕虜を見よ。彼は口を開くとまず、自分に栄誉を帰すのではなく、神をすべての知恵の源として高めたのである。『あなたはわたしが見た夢と、その解き明かしとをわたしに知らせることができるのか』という王の切なる問いに彼は答えた。『王が求められる秘密は、知者、法術士、博士、占い師など、これを王に示すことはできません。しかし秘密をあらわすひとりの神が天におられます。彼は後の日に起るべき事を、ネブカデネザル王に知らされたのです。』（国と指導者下巻 105）

「ユダヤ人の捕囚は、常に太陽が輝いている最も強力な帝国の君主の前に立っていた。彼の富と栄光にもかかわらず、ネブカデネザルは大いに思い悩んでいた。しかし、若い捕囚たちは自分の神のうちに落ち着いており、幸福であった。その時こそ、もしあるとすれば、ダニエルが自分を高めようとする好機、自分自身の善とすぐれた知恵を際立たせる機会であった。しかし、彼の最初の努力は、自分自身の誉れを否定することであり、神を知恵の源として高めることであった。」（ユース・インストラクター 1903 年 9 月 1 日）

- b. 王が自分の夢で見た像を述べなさい（ダニエル書 2:31-33）。

「厳粛な注意をもって、詳細がみな再現されるように耳を傾けながら、王はこの夢こそ自分を悩ませていた夢であることを認めた。こうして彼は、好意的に解き明かしを受け入れる準備ができた。」（同上）

「王の王が、バビロンの王に大いなる真理を伝えようとしておられたのである。神は、ご自分が世界の諸国を支配し、王を廃し、王を立てる力をもっておられることを示そうとされた。もしできることならば、彼の天に対する責任感を目覚めさせようとするのであった。終末に至るまでの将来の出来事が、彼の前に展開されるのであった。」（国と指導者下巻 106）

- c. 王がそれを見たときに、像はどうなりましたか（ダニエル書 2:34, 35）。

a. 金の頭は何を意味していましたか(ダニエル書 2:36-38)。

「ネブカデネザル王の治世下で、バビロンは地上において最も裕福で、最も力強い王国であった。その富と荘厳さは、靈感によってかすかに描写されているだけである。」(ユス・インストラクター 1903年9月29日)

b. 続く金属によって、どの帝国が象徴されていましたか(ダニエル書 2:39, 40)。

「預言はバビロン、メド・ペルシャ、ギリシヤ、ローマなどの、世界の大帝国の興亡の歴史を記している。」(国と指導者下巻 142)

「ダニエルは、…ネブカデネザルに、彼の王国は取って代わられると宣言した。神の世界にある彼の偉大さと力は彼の繁栄の日となり、それから第二の王国が生じ、それもまた一定の自分の統治者であられる唯一の真の神を高めるかどうかに関する試験期間を得ることになるのであった。こうしない時、その栄光は消えていき、第三の王国がその位置を占める。従順か不従順かによって試され、これもまた過ぎ去るのである。第四は鉄のように強く、世界の諸国家を征服するであろう。預言のページに記録され、歴史の書物に跡をたどることができるこれらの無限のお方の予告は、神こそこの世の諸事件のうちに支配する力であられることを示すために与えられた。このお方は時と季節を変え、王を廃し、王を立てて、ご自身のご目的を果たされるのである。」(ユス・インストラクター 1903年9月29日)

バビロンは神を忘れ、その繁栄の栄光を人間の偉業に帰したがゆえにその繁栄のうちに過ぎ去った。

メド・ペルシャ王国は、その王国の中で、神の律法を足の下に踏みにじったがゆえに天の怒りをこうむった。主の恐れが人々の心の中になかった。メド・ペルシャにおいて蔓延している感化力は、邪悪で、冒瀆的で、墮落していた。

続く王国はさらに低俗で墮落していた。彼らは神への忠誠を捨てたために、墮落した。彼らが神を忘れたとき、道徳的価値という量りにおいて、ますます低く沈んでいった。」(同上 1903年9月22日)

c. 足と足の指が個々に違うことによって、どのように諸王国があらわされていましたか(ダニエル書 2:41-43)。

「ネブカデネザルの像の中でわたしたちの立場は、足の指によって表されており、分裂した状態、崩れかけた材料であって、一緒に保つことができない。」(教会への証 1巻 361)

5. 神の王国は永遠に続く

木曜日 4月16日

- a. この世の諸権力という体系全体に終わりをもたらすのは、どの王国ですか（ダニエル書 2:44, 45）。

「終末に至るまでの出来事をネブカデネザルの前に示した巨大な像の夢は、彼が世界の歴史においてどんな役割を果たし、彼の王国が天の王国とどんな関係を維持すべきかを理解するためであった。彼は夢の解き明かしの中で、神の永遠の王国が建設されることを明らかに教えられたのである。」（国と指導者下巻 112）

- b. 栄光のうちにある神の王国の統治が始まるのはいつですか（ヨハネによる福音書 18:36; マタイによる福音書 25:31-34; 26:64; ヨハネの黙示録 6:15-17）。

「わたしたちの国は、この世のものではない。わたしたちは自分たちの主が天から地上に来られ、すべての権力、権威をくつがえし、神の永遠の王国を打ち立てて下さるのを待っている。…預言は、神の大いなる日がわたしたちに迫っていることを示している。それは大いに急いでいる。」（教会への証 1巻 360, 361）

- c. 夢を明らかにしたダニエルの成功に対して、王はどのように反応しましたか（ダニエル書 2:46-49）。

「ダニエルがこの夢を解き明かした結果、王は彼と友達に栄誉と高位を与えることになった。…ダニエルの三人の友達も、各地の議官、裁判官、統治者とされた。これらの人々は虚栄に高ぶることはなかったが、神が全地の権力者にまさって認められたこと、またこのお方の王国がすべての地の諸国にまさって高められたのを見て、喜んだ。」（ユース・インストラクター 1903年9月8日）

個人的な復習問題

金曜日 4月17日

1. ネブカデネザル王は、自分の信頼する知者たちに関して何を発見しましたか。
2. ダニエルの感謝の祈りが記録されているが、お願いの祈りは記録されていないという事実について、どのような重要な意味がありますか。
3. バビロンで最も知恵のある人でありながら、ダニエルはどのような態度を持っていましたか。
4. 変化していく金属によって、王国の性質がどのように表されていますか。
5. 石に関する夢の部分は、いつ成就しますか。

ダニエルの最初の幻

暗唱聖句：「わたしが見ていると、この角は聖徒と戦って、彼らに勝ったが、ついに日の老いたる者がきて、いと高き者の聖徒のために審判をおこなった。そしてその時がきて、この聖徒たちは国を受けた。」(ダニエル書 7:21, 22)

推奨文献： 各時代の争闘下巻 210-226;
初代文集 124-127

「この世界の歴史の終末が近づくにつれて、ダニエルが記した預言はわれわれが住んでいる時代そのものに関するものであるから、特別に注意を払わなければならない。」(国と指導者下巻 156, 157)

1. 四方の風、四つの獣 日曜日 4月19日

a. ダニエルはいつ、最初の預言的な幻が与えられましたか。また彼はそれに対してどのように応じましたか(ダニエル書 7:1, 15, 16 (上句))。

「バビロンが滅亡する少し前に、ダニエルがこれらの預言を瞑想し、時に関する理解を神に祈り求めている時に、国家の興亡に関する一連の幻が彼に与えられた。ダニエル書7章に記されている第一の幻とともに、解き明かしが与えられた。しかしすべての事が預言者に明らかにされたのではなかった。」(国と指導者下巻 162)

b. 自然の要素が見られることによって、何があらわされていきましたか(ダニエル書 7:2; ヨハネの黙示録 17:15; エレミヤ書 25:31-33)。

c. 天使は、起こってきた四つの大いなる獣の意味を、どのように説明しましたか(ダニエル書 7:3, 16 (下句), 17)。

「世界を支配してきた強国は…猛獣として、ダニエルに示された。」(各時代の争闘下巻 159)

- a. 四つの獣のうち第一の獣は何でしたか。またどの帝国を表していましたか（ダニエル書 7:4; エレミヤ書 50:17; ハバクク書 1:6-8）。

「[バビロン] は、神のご目的を果たさなかった。そしてこのお方の時が来たとき、この誇りと力の王国は、最高の治世の人々によって統治されていたが、滅ぼされ、散らされ、無力にされた。キリストは次のように宣言しておられる。『わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。』バビロンの名高い政治家たちは、自分たちが神に依存しているとはみなさなかった。彼らは自分たちでこれらすべての荘厳さや賞賛を創造したと考えていた。しかし、神が語られると、彼らは枯れる草のようであり、しばむ花のようであった。神のみ言葉とみ旨だけが、とこしえに続くのである。」（ユース・インストラクター 1903 年 9 月 29 日）

- b. 第二の獣はどのように描写されていますか。またどの帝国を表していますか（ダニエル書 7:5）。

「活動の舞台に現われたすべての国々は、『警護者』にして『聖者』なる神の御目的を成就するかどうかを試みられるために、地上にその地位を占めることを許されたのである。預言は世界の大帝国バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマの興亡を描いている。これらのどの国も、弱小な諸国家と同じように、歴史をくりかえしている。どの国家も試験の期間を与えられていずれも失敗し、栄光は消え、権力は失われ、その地位は他の国家によって占められた。

それらの国々は、神の原則を退け、そのことによって自らの破滅を招いたが、一方また天来の支配的な目的がそれらの国々の動きを通して働いていたことが明らかにされた。」（教育 209）

- c. どのような特別な要素が、ギリシャ帝国をあらわしている第三の獣を特徴づけていましたか（ダニエル書 7:6）。

「もしこれらのいくつかの王国が、いつも目の前に主の恐れを保ってきたならば、彼らには知恵と力が与えられ、それらが彼らを共に結び付け、強く保ったことであろう。しかし、世の諸国の統治者たちは、自分たちが悩まされ、困惑したときだけ、神を自分の力としてきた。…彼らは、自分たちが理解できない神秘の説明を求めて、天の光で照らされた思いを持つ人々に嘆願せずにはいられなかった。」（ユース・インストラクター 1903 年 9 月 29 日）

- a. 何によって、第四の獣は、自然の言葉では描写するのが非常に難しかったのですか(ダニエル書 7:7)。

「聖霊は、おそろしい猛獣によって地上の王国を象徴したが、キリストは『世の罪を取り除く神の小羊』である(ヨハネ 1:29)。暴力をつかって良心をしいることは、小羊の政策ではない。」(キリストの実物教訓 54)

「十字架はローマの権力と関連していた。それは最も残酷で屈辱的な形の死の道具であった。最も下等な犯罪人は処刑場まで十字架をかついで行かねばならなかった。十字架を彼らの肩にのせようとすると、彼らはしばしば必死の力で抵抗するが、ついには負けてしまって、この責め道具が彼らにくくりつけられるのであった。」(各時代の希望中巻 187)

- b. 第四の獣の角の間に、何が見られましたか(ダニエル書 7:8)。

「第6世紀に至って、法王権は確立した。その権力の座はローマに置かれ、ローマの司教が全教会の首長であると宣言された。異教は法王権に地位を譲った。龍は獣に、「自分の力と位と大いなる権威とを」与えた(黙示録 13:2 付録参照)。こうして、ダニエル書と黙示録に預言されたところの、1260年間に及ぶ法王権の迫害が始まった(ダニエル書 7:25、黙示録 13:5-7 参照)。キリスト者たちは、神に対する忠誠を放棄して法王教の儀式と礼拝を受け入れるか、それとも、地下の牢獄に幽閉され、拷問や火刑、また斬首吏のおので生命を失うか、そのどちらかを選ばねばならなくなった。『しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあろう。また、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう』というイエスの言葉が、ここで成就した(ルカ 21:16, 17)。迫害は、これまで以上に激しく忠実な人々に向けられ、世界は一大戦場となった。何百年もの間、キリストの教会は人里離れた場所に難をのがれた。預言者はこのように言っている。『女は荒野へ逃げて行った。そこには、彼女が1260日のあいだ養われるように、神の用意された場所があった』(黙示録 12:6)。(各時代の争闘上巻 49, 50)

- c. ダニエルは、幻を見た後で、何を知りたいと望みましたか(ダニエル書 7:19, 20)。

- a. 御使は、ローマ帝国を表す恐ろしい第四の獣に関して何を説明しましたか（ダニエル書 7:23）。
- b. 小さい角について、何があらわされましたか（ダニエル書 7:24）。

「ローマ大帝国は粉碎され、その破滅から、強力な権力、ローマカトリック教会が生じた。この教会は、自分の無謬とその継承的な宗教を誇る。しかし、この宗教は、不法の秘密の秘されていることを知るすべての人にとって恐怖である。この教会の祭司たちは、聖書の中に表された神の御心に関して、民を無知にしておくことによって、自分たちの優勢な立場を維持する。」(ユース・インストラクター 1903年9月22日)

- c. 小さい角の権力の怒りは、だれに対して向けられますか（ダニエル書 7:21, 25）。

「ローマ教会が権力を握ったことは、暗黒時代の始まりを意味した。教会の権力が増すにつれて暗黒は深まった。信仰は、真の基礎であるキリストから、ローマ法王へと移された。人々は、罪の許しと永遠の救いを求めて神の子によりたのむかわりに、法王や、法王が権力をゆだねた司祭や司教たちにとよった。彼らは、法王はこの地上における彼らの仲保者であって、法王によらなければだれも神に近づくことができない、と教えられた。さらに、法王は神に代わって彼らの前に立つ者であるから、絶対に服従すべきであると教えられた。彼の要求に従わない者が、最も厳しい罰をその心身に受けるのは、当然のこととされた。こうして人々の心は神から引き離されて、誤りの多い残酷な人々に、いや、彼らを通して力を振うところの暗黒の君自身に向けられた。罪は聖潔の仮面をかぶった。聖書が圧迫され、人間が自分を最高のものと見なすようになるとき、そこには、欺瞞と惑わし、汚れた罪悪しか期待できない。人間の律法と言い伝えとが高められるにつれて、神の律法を放棄するとき常に起こる腐敗があらわれてきた。…

キリストの教会にとって危機の時代であった。忠実な旗手はまことに少なかった。真理の証人たちもいなかったわけではないが、誤りと迷信が完全に勝利して、真の宗教は地上からぬぐい去られたように思われた時もあった。福音は見失われてしまった。しかし宗教の形式は増大し、人々は厳しい要求に苦しんだ。」(各時代の大争闘上巻 49-52)

- a. 小さい角の権力に終わりをもたらすために、何が起こりましたか（ダニエル書 7:26）。

「〔黙示録 13:5 の〕42 か月は、ダニエル書 7 章の『ひと時と、ふた時と、半時の間』、つまり 3 年半、すなわち 1260 日と同じで、その期間のあいだ、法王権は神の民を圧迫するのであった。この期間は、すでに述べたように、法王権が至上権を握った紀元 538 年に始まり、1798 年に終わった。この時、法王はフランス軍の捕虜になり、法王権は致命的な傷を受けた。『とりこになるべき者は、とりこになっていく。』（各時代の大争闘下巻 158）

- b. 裁き主が座につかれることは、どのように描写されていますか（ダニエル書 7:9, 10, 13）。

「ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもとに来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終わるときに与えられる『主権と光栄と国』とをお受けになるためである。」（同上 211）

- c. 裁きの結果は、どうなりますか（ダニエル書 7:11, 14, 18, 22, 26, 27）。

「贖罪の大いなる計画は、この世界を完全に神の恵みのもとに引きかえす。罪によって失われたすべてのものが回復される。人間ばかりでなく、地も贖われて、従順な者たちの永遠のすみかとなる。6000 年のあいだ、サタンは地の所有を維持しようと努力してきた。だが、今や創造当初の神のみ旨が完成される。『いと高き者の聖徒が国を受け、永遠にその国を保って、世々かぎりなく続く』（ダニエル書 7:18）』（人類のあけぼの上巻 403）

個人的な復習問題

金曜日 4月24日

1. ダニエルが海から起こるのを見た四つの獣を描写しなさい。
2. 獣に象徴された帝国の名を挙げなさい。また彼らのどのような特徴が成就しましたか。
3. 何が、小さい角の権力を、他に示された権力と違うものにしていましたか。
4. 小さい角の権力の「大きな」言葉とは何でしたか。
5. 裁き主は、だれに血の統治権を与えますか。それはいつですか。

第一安息日献金 世界のミッションのために

第 24 回総会代表団会議には、最近開設された多くの新しいミッションが出席しました。わたしたちは、現代の真理のみ事業におけるこの進歩を心から喜び、全世界が神の栄光によって照らされていく中で、このようなユニットがさらに多く開設されることを心待ちにしています。

新しい場所で魂を救うこの驚くべき働きに協力する方法は一つではありません。「『主の御名を呼び求める者は、すべて救われる』とあるからである。しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわれなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。『ああ、麗しいかな、良きおとずれを告げる者の足は』と書いてあるとおりである。」(ローマ人 10:13-15 節上旬)。働き人も資金提供者も、失われた羊を救うために様々な方法で自らを犠牲にしています。

「もしわたしたちの仲間全員が、後に重要な中心地となった場所で業を確立するのが、かつてどれほど困難であったかを知っていたなら、見込みのない状況に立ち向かい、両手を天に掲げて『わたしたちは失敗も落胆もしません』と宣言するには勇気が必要だと理解するでしょう。新しい困難な分野を切り開いたことのない人々は、開拓奉仕の難しさを理解していません。もし彼らが神の働きを理解するなら、これまで行われたことを喜ぶだけでなく、み事業の将来に歓喜する理由も見出すでしょう。

「わが兄弟がたよ、失望の理由はない。良い種はまかれてきた。神はそれを見守っておられ、それが芽を出し、豊かな収穫をもたらすようにしてくださる。魂を救う事業の多くは、最初、多くの困難の中で前進してきたことを覚えていなさい。」(教会への証 7 卷 242)

「わたしたちが所有している一ドル一ドルは、主のものである。不要なものに費やす代わりに、それを伝道の働きへの召しに応えるために投資すべきである。

新しい伝道地が開かれるときに、資金を求める召しは絶えず増していく。」(ヒストリカル・スケッチ 293)

したがって、今日の第一安息日献金は、今まさに切実に必要とされている世界宣教のために集められます。主がすべての献金者を祝福し、自己否定と信仰をもって喜んで献金し、それぞれに報いを与えてくださいますように。

世界総会の皆さんの兄弟より

王国の継承

暗唱聖句：「先に示された朝夕の幻は真実です。しかし、あなたはその幻を秘密にしておかなければならない。これは多くの日の後にかかわる事だから」（ダニエル書 8:26）

推奨文献： 各時代の 大争闘 下巻 138-150

「活動の舞台に上った国はすべて、……それぞれの国にテストの期間が与えられた。そして、それぞれの国がその試練に失敗して、その栄光は消え、その力は去っていった。」（国と指導者下巻 142）

1. 雄羊が大いなるものとなる

日曜日 4 月 26 日

- a. バビロンの支配権の終わり近くに、ダニエルは何を見ましたか（ダニエル書 8:1, 2）。
- b. 部隊に現われ、大いなるものとなった第一の獣の態度を描写しなさい（ダニエル書 8:3, 4）。
- c. 御使は、ダニエルが見た雄羊をどのように解き明かしましたか（ダニエル書 8:19, 20）。

「預言者の幻の中で、〔神〕は一人の強力な統治者を廃し、もう一人を立てるのが見られる。このお方は宇宙の君主として表わされており、このお方の永遠の王国が建てられようとしている、すなわち日の老いたる者、生ける神、あらゆる知恵の源、現代の統治者、そして将来の啓示者。」（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1166）

「われわれは、ダニエル書と黙示録に明らかにされている国々の興亡から、単なる外見的、世俗の栄光がどんなに無価値なものであるかを学ばなければならない。今日においても世界にその比を見ないバビロンの権力と壮麗さのすべては、当時の人々にとっては実に堅固で永続的に見えたのであるが、なんと完全に過ぎ去ってしまったことであろう。それは『草花のように過ぎ去』った（ヤコブ 1:10）。同様にメドペルシャ王国も、ギリシャ王国もローマ王国も滅びた。そして神をその基としないものはみな滅びるのである。」（国と指導者下巻 157）

- a. どの新しい権力がメド・ペルシャに挑みましたか(ダニエル書 8:5, 21)。
- b. この新しい帝国の王の征服する力を述べなさい(ダニエル書 8:6, 7)。

「地上の統治者が行使する権力は、天から授けられたもので、その成功はこの与えられた権力の用い方によって左右される。看視者である神は各人に、『あなたがわたしを知らなくても、わたしはあなたを強くする』と仰せになっている(イザヤ 45:5)。昔ネブカデネザルに『義を行って罪を離れ、しえたげられる者をあわれんで、不義を離れなさい。そうすれば、あるいはあなたの繁栄が、長く続くかもしれませんが』(ダニエル書 4:27)と言われた言葉は、各人にとって人生の教訓である。これらのことを理解すること、一すなわち『正義は国を高く』するということや、『その位が正義によって……立』つということや、『いつくしみと、まこととは王を守る』ということを悟り。(箴言 14:34; 16:12; 20:28)、『王を廃し、王を立て』られる神の能力のあらわれの中に(ダニエル 2:21)、これらの原則が働いていることをみとめること—これが歴史の原理を理解することである。

このことをはっきり示しているのは、神のみ言葉である聖書だけである。そこには、国民の力というものは、個人の場合と同じように、不可抗力な機会や文明の利器にあるのではなく、また彼らが誇るその強大さにあるのでもないことが示されている。国民の力というものは、彼らが神の目的を成就する誠実さによって測られるのである。」(教育 206, 207)

- c. ギリシャ帝国がはなはだしく高ぶり、アレクサンダー大王の経歴が最高潮に至ったとき、何が起こりましたか(ダニエル書 8:8, 22)。

『怒ることをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる』と賢者は言った。感情的になるような誘惑を受けた時、心の平静さを保つことができる男女は、軍隊を率いて、戦いに勝利する最も有名な將軍よりも、神とみ使いたちの前に高く立つのである。名高い一人の皇帝は臨終の床で、『わたしがしたすべての征服の中で今わたしに慰めとなるものがあるとすれば、それはただ一つ、自分の狂暴な気性を征服したことである』と言った。アレキサンダーやシーザーは、自己を征服するよりも世界を征服するほうがはるかにたやすいことを知った。次々に世界の国々を征服して、彼らは倒れた。その一人は『不節性の犠牲となり、もう一人は向こうみずな野心の犠牲になって』倒れたのである。」(家庭の教育 86, 87)

- a. 分裂したギリシャ帝国にとって代わったものとして新しい勢力は、どのように描写されていますか (ダニエル書 8:9, 23)。
- b. ダニエルが幻の中で見たローマ、すなわち異教と法王権の両方の行動を述べなさい (ダニエル書 8:10-12, 24)。

「法王教は世界の専制君主となった。王も皇帝もローマ法王の命令に服した。人々の運命は、現世のものも来世のものも、彼の支配下にあるように思われた。…しかし、『法王制の真昼は、世界の真夜中であった。』……ヨーロッパは、幾世紀もの間、学問、芸術、また文化の面で何の進歩もなかった。キリスト教世界は、道徳的、知的マヒ状態に陥っていた。」(各時代の争闘上巻 57, 58)

「預言されていたとおり、法王権はこの真理を地に投げ捨てた。人間の言い伝えや習慣が尊ばれる一方、神の律法は踏みにじられた。法王権の支配下にあった諸教会は、早くから、日曜日を聖日としてあがめるよう強要された。誤りと迷信が広くゆきわたっているさなかにあつて、多くの者が一神の真の民でさえも一当惑し、真の安息日を守りながらも、日曜日にも仕事を休むほどであった。しかし法王教の指導者たちは、それでは満足しなかった。彼らは、日曜日を尊ぶばかりでなく、安息日を汚すことを要求した。そして、安息日を尊ぼうとする人々を、最も激しい口調で非難した。だれでも神の律法を平安のうちに守ろうとするならば、どうしても、ローマの権力外に逃れるほかはなかった。」(同上 64, 65)

- c. 狡猾な方法にもかかわらず、どのようにしてこの権力は終わりに至りますか (ダニエル書 8:25)。

「法王が長期間にわたって至上権を握っていた時、地上は暗黒におおわれたが、しかし、その中であつて、真理の光が全く消えてしまったわけではなかった。どの時代にも神の証人がいた。キリストを神と人間との間の唯一の仲保者として信じ、人生の唯一の規準として聖書を受け入れ、そして真の安息日を尊んだ人々がいたのである。こうした人々に世界が負うところいかに大であるか、後世の人々にはけっしてわからないであろう。彼らは異端者の烙印を押され、その動機は非難され、その品性は中傷され、そして彼らの書き物は禁圧され、誤り伝えられ、骨抜きにされた。しかし彼らは堅く立った。そして、来たるべき時代のための神聖な遺産として、彼らの信仰を、代々、純潔に保つたのである。」(同上 59)

- a. ダニエルは、幻の出来事を含む膨大な時に関して、どのような会話がなされるのを聞きましたか。またこの期間の終わりに何が起こることになっていましたか(ダニエル書 8:13, 14)。
- b. 礼典律の中で描写され、ダニエルの幻の中で予告されていたように、聖所の清めによって、どの本体の出来事が予告されていましたか(レビ記 23:27-32; 16:33, 34)。

「キリストの犠牲と祭司職の影であった、型としての制度において、聖所の清めは、年ごとの奉仕において大祭司が行なう最後の務めであった。それは、贖罪の最後の働き、すなわち、イスラエルから罪を取り除くことであった。それは、天の記録に記されている神の民の罪を除く、あるいは消し去るという、天の大祭司の奉仕における最後の働きを予表していた。」(各時代の斗争圖下巻 46)

「古代において、民の罪が、信仰によって罪祭の上におかれ、そしてその血によって、象徴的に地上の聖所に移されたように、新しい契約においては、悔い改めた者の罪は、信仰によってキリストの上におかれ、そして実際に天の聖所に移されるのである。そして、地上の聖所の型としての清めが、それを汚してきた罪を取り除くことによって成し遂げられたように、天の聖所の実際の清めも、そこに記録されている罪を取り除くことによって、すなわち消し去ることによって、成し遂げられねばならない。しかし、これを完成するためには、だれが罪の悔い改めとキリストを信じる信仰によって、贖いの恵みを受ける資格があるかを決定するために、記録の書の調査がなされねばならない。したがって、聖所の清めには、調査の働き、すなわち審判の働きが含まれるのである。この働きは、キリストがご自分の民を贖うために来られる前に行なわれねばならない。なぜなら、彼が来られる時には、彼はすべての者に、それぞれの行為に応じて報いを与えられるからである(黙示録 22:12 参照)。(同上 136, 137)

- c. 御使は、2300 日の預言に関して、何と仰いましたか(ダニエル書 8:26 (14 節 傍注参照))。

- a. ダニエルのために、天使ガブリエルは、何を任じられましたか（ダニエル書 8:15-18）。

「ダニエルのところへ神からのみことばをもってきたのは、神のみ子に次ぐ位にある天使ガブリエルであった。愛するヨハネに将来のことを示すために、キリストからつかわされたのも、『彼の天使』ガブリエルであった。そしてこの預言のことばを朗読し、聞き、そこに書かれていることを守る者に、祝福が宣告されている（黙示録 1:3 参照）」（各時代の希望上巻 288）

- b. 多くの詳細を伝える徹底的な説明をなしたにもかかわらず、2300日の時の預言について聞いた後のダニエルの反応は、どのようなものでしたか（ダニエル書 8:27）。

「もう一つの幻によって、将来の出来事についてさらに光が与えられた。そしてこの幻の最後のところで、ダニエルはひとりの聖者の語っているのを聞いた。またひとりの聖者があって、その語っている聖者にむかって……『幻にあらわれたことは、いつまでだろうか』と言うのを聞いた（同 8:13）。『2300の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復す』という解答の言葉が、彼の心を大いに悩ました（同 8:14）。彼は熱心に幻の意義を知ろうとした。彼はエレミヤが預言した70年の捕囚の期間と、神の聖所が清められる前に経過すると、幻の中で天の聖者が宣言するのを聞いた2300年との間の関係を、理解することができなかった。天使ガブリエルはダニエルに部分的解き明かしを与えたが、彼は『これは多くの日の後にかかわる事だから』という言葉聞いたときに、気を失ってしまった。『われダニエルは疲れはてて、数日の間病みわずらったが、後起きて、王の事務を執った。しかし、わたしはこの幻の事を思って驚いた。またこれを悟ることができなかった』と、ダニエルは自分の経験を記している（同 8:26, 27）。（国と指導者下巻 162, 163）

個人的な復習問題

金曜日 5月1日

1. どの動機がしばしば地上の権力の征服をかりたてますか。
2. どの正されない品性の欠陥によって、やぎの高尚な角が抜けるに至りましたか。
3. ローマの異教と法王権の局面において、互いにどのように似ていますか。
4. 2300日の終わりに、何が起こることになっていましたか。
5. ダニエルが気を失ったとき、幻のどの部分がおダニエルにとって神秘でしたか。

説明された幻

暗唱聖句：「それゆえ、エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、7週と62週あることを知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもって、建て直されるでしょう。」(ダニエル書 9:25)

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 119-137

「天使は、ダニエルが8章の幻のなかで理解しなかった点、すなわち、『2300の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という、時に関する言葉を説明するという目的のために、特につかわされたのであった。」(各時代の大争闘下巻 12-13)

1. 理解するために読む

日曜日 5月3日

a. メド・ペルシャによってバビロンが征服される頃に、ダニエルは何を研究していましたか(ダニエル書 9:1, 2)。

「バビロンのただ中で、神に忠誠をつくし続けていた人々が、自分たちの解放を告げた預言を研究し、主を求めていた間、神は、ご自分の悔い改めた民に恩寵を示すよう、王の心を備えておられた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 1 巻 4 巻 1172)

b. ダニエルが読んでいた預言の意義を説明しなさい(エレミヤ書 25:8-14)。

c. エレミヤの預言は、神の民に何をしよう強く訴えていましたか(エレミヤ書 29:10-14)。

「〔捕囚たち〕の手もとにはエレミヤの書物があった。そして、イスラエルがバビロンから回復される前に経過すべき期間が、そこに明示されていたのである。……ユダの残りの者たちに対しては、熱心な祈りに答えて恵みが与えられるのであった。」(国と指導者下巻 161)

- a. ダニエルは、自分の読んでいる者に対して反応し、何をしましたか（ダニエル書 9:3）。

「ダニエルは確かな預言の言葉に基づいた信仰をもって、これらの約束が速やかに成就されるように主に嘆願した。ダニエルは神の誉れが保たれるように嘆願した。彼はその訴えのなかで、神のみこころに従わなかった人々と自分とを全く同じ状態におき、彼らの罪を自分自身の罪として告白した。」（国と指導者下巻 163）

- b. ダニエルの祈りを読んだ後、あなたは彼がどのように自らをへりくだらせ、神にとりなしをしたことについて、どのようなことに気づきましたか（ダニエル書 9:4-19）。

「ダニエルは長い間神に仕え天使によって『大いに愛せられている者』と呼ばれたにもかかわらず、彼は今、神の前に罪人として立ち、彼の愛する民の大いなる必要を訴えたのである。」（同上 163）

- c. 何について、ダニエルは特に案じていましたか（ダニエル書 9:16, 17）。

「およそ 70 年間、イスラエルは捕囚であった。神がご自身の所有のために選ばれた地は、異教徒の手に渡されていた。愛された都、天の光を授けられた者、かつては全地の喜びであったものが、今は蔑まれ、体面が傷つけられていた。神の契約の箱と贖罪所を覆っていた栄光のケルビムを有していた宮は、破壊されていた。その場所そのものが汚れた足によって汚されていた。かつての栄光を知っている忠実な人々は、イスラエルを神の選民として区別してきた聖なる家が破壊されていることで苦悩に満たされていた。これらの人々は、神の民の罪のゆえの神の非難を目撃してきたのであった。彼らはこの言葉が成就するのを目撃してきた。彼らはまたもしイスラエルが神に帰り、このお方のみ前に慎んで歩むならば、恩寵の約束があることもまた目撃してきた。高齢になった白髪の寄留者たちが破滅のただ中で祈るために、エルサレムへ上った。彼らはシオンを憐れみ、その義の栄光でシオンを覆ってくださるよう主に嘆願するとき、その石にくちづけし、それらを自分たちの涙でぬらした。ダニエルは、イスラエルの捕囚のために定められた期間が終わりに近づいていることを知っていた。しかし、彼は神が彼らを救出すると約束されたからと言って、彼ら自身に何もすべきことがないとは感じなかった。断食と悔悟をもって、彼は主を求め、自分自身の罪と民の罪を告白した。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワット・コメント] 4 巻 1172）

- a. ダニエルの祈りはどのように中断されましたか (ダニエル書 9:20, 21)。

「天の神はダニエルの熱心な祈りに、耳を傾けておられた。赦しと回復を求める彼の嘆願が終わらないうちに、大いなる天使ガブリエルが彼に現れ…た。」(国と指導者下巻 164, 165)

「ダニエルのところへ神からのみことばをもってきたのは、神のみ子に次ぐ位にある天使ガブリエルであった。……そしてこの預言のことばを朗読し、聞き、そこに書かれていることを守る者に、祝福が宣告されている。」(各時代の希望上巻 288)

- b. ガブリエルが来た目的は何でしたか。また、これは 8 章の幻とどのように関係がありますか (ダニエル書 9:22, 23)。

「[ガブリエル] が彼に現れ、バビロンの滅亡とベルシャザルの死に先立って彼が見た幻に、彼の注意を向けた。」(国と指導者下巻 165)

「神は、『この幻をその人に悟らせよ』と天使に命じておられた。この命令は遂行されねばならなかった。天使は、それに従って、しばらくたったときに、ダニエルのところにもどって、『わたしは今あなたに、知恵と悟りを与えるためにきました。』『ゆえに、このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい』と言った (ダニエル書 8:27, 16; 9:22, 23, 25-27)。8 章の幻のなかで、重要な点が一つ説明されていなかった。それは、時、すなわち 2300 日の期間に関するものであった。それゆえに天使は、再び説明を始めるにあたって、主に時の問題に関して述べた。」(各時代の争闘下巻 11, 12)

- c. ユダヤ国家のためには、どの期間が取り置かれていましたか。またその時のあいだに、何が成し遂げられるはずでしたか (ダニエル書 9:24)。

「キリストの説教の主旨は、『時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ』であった (マルコ 1:15)。このように、救い主ご自身によって与えられた福音のメッセージは、預言に基づいていた。イエスが『時は満ちた』と宣言されたその「時」は、天使ガブリエルによってダニエルに知らされた期間のことであった。……預言の1日は1年を表わしている (民数記 14:34、エゼキエル書 4:6 参照)。70 週すなわち 490 日は、490 年を表わす。」(各時代の希望上巻 286, 287)

- a. どのような重要な王の命令が 70 週の始まりを刻むことになるはずでしたか (ダニエル書 9:25)。

「エルサレム再建の命令は、アルタシャスタ・ロンギマヌスの布告によって完結されたが、それは紀元前 457 年の秋に発効した (エズラ記 6:14, 7:1 英訳聖書注、9 参照)。この時からかぞえて、483 年は、紀元 27 年に当る。」(各時代の希望上巻 287)

- b. この預言を成就した命令の中でなされた備えを述べなさい (エズラ記 7:11-13, 21-27)。

「主は…王の心を動かし、こうしてエズラは彼の恩寵を得た。王は、彼の手中に、宮の再建のために十分な資金をおき、ユダヤ人が戻ることができるようにした。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 3 巻 1134)

- c. 預言はまたメシヤの働きについて、何を予告していましたか (ダニエル書 9:26 (上旬), 27 (上旬))。

「預言によれば、この期間は、あぶらそそがれたおかたメシヤに及ぶことになっていた。紀元 27 年に、イエスは、バプテスマの時、聖霊のあぶらを受け、その後すぐに公生涯におはいりになった。そのとき、『時は満ちた』とのメッセージが宣伝されたのであった。

それから天使は、『彼は一週の間 [7 年間] 多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう』と言った。救い主が公生涯におはいりになってから 7 年の間、福音は、特にユダヤ人に伝えられるのであった。すなわち 3 年半はキリストご自身によって、その後は使徒たちによって、福音が伝えられるのであった。『彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう』。紀元 31 年の春、まことのいけにえであられるキリストは、カルバリーでささげられた。その時神殿の幕がまっ二つに裂けて、犠牲制度の神聖さと意義とが失われたことを示した。地上のいけにえと供え物とが廃される時がきたのであった。

1 週—7 年—は紀元 34 年に終わった。その時、ユダヤ人は、ステパノを石で打ち殺したことによって福音の拒否を決定的なものにした。迫害されたために国外に離散した弟子たちは、『御言を宣べ伝えながら、めぐり歩いた』(使徒行伝 8:4)。(各時代の希望上巻 287, 288)

- a. 490 年が終わった後、どのような悲劇が起こることになっていましたか（ダニエル書 9:26（下句）、27（下句）；ルカによる福音書 21:20）。

「エルサレムに対する神の忍耐は、ただユダヤ人をかたくなな不信に陥れるだけであつた。……その盲目で神をないがしろにした思い上がりから、エルサレムは神ご自身の都であるから、滅亡する恐れはないと公言していた。彼らは権力を確保するために、にせ預言者を買収して、ローマの軍隊が神殿を包囲しているときでさえ、神の救いを待つべきであると人々に言わせた。群衆は、至高者であられる神が敵を滅ぼすために介入なさることを、最後まで信じていた。しかし、イスラエルは、神の保護を退けてしまっていたから、今、なんの防備もなかった。不幸なエルサレムよ。内紛に裂かれ、同志の手で殺害された子らの血が、都の通りを赤く染め、その上、異邦人の軍隊が要塞を破壊し、兵士たちを殺害したのである。」（各時代の争闘 上巻 15, 16）

- b. この期間の最初の部分が理解できるとき、わたしたちは今度は、何を特定することができますか（ダニエル書 8:14; 9:24）。

「ここまで、預言に指示されたことはみな、驚くばかりに成就した。そして 70 週が紀元前 457 年に始まり、紀元 34 年に終わることが、疑いの余地なく確定した。この年代から 2300 日の終わりを見いだすことは、難しいことではない。70 週、すなわち 490 日が 2300 日から切り取られると、あとに 1810 日が残る。490 日が終わったあとで、1810 日もまた成就するはずであつた。紀元 34 年から 1810 年たてば 1844 になる。この大いなる預言の期間が終わったところで、『聖所は清められる』と神の天使はあかしたのである。こうして、聖所の清め—それはキリストの再臨の時に起こるものと、ほとんどすべての人が信じていた—の時が、はっきりと指示された。」（同上下巻 15, 16）

個人的な復習問題

金曜日 5月8日

1. 預言者自身でありながら、ダニエルは何を熱心に理解しようとしましたか。
2. ダニエルはなぜ、イスラエルの過去の罪の悔い改めの祈りの中に、自分も含めたのですか。
3. どのように、ダニエル書 9 章こそ、ダニエル 8 章の奥義を解決するということを、疑いの余地なく知ることができますか。
4. 490 年の預言の始まりを刻んだ出来事を説明しなさい。
5. ダニエルとイエスによって予告されていた通りに、エルサレムが滅亡したことを述べなさい。

封じられた書が再び開かれる

暗唱聖句：「そこで、わたしはその御使のもとに行って、『その小さな巻物を下さい』と言った。すると彼は言った、『取って、それを食べてしまいなさい。あなたの腹には苦いが、口には蜜のように甘い。』」（黙示録 10:9）

推奨文献： 各時代の争闘下巻 95 - 118

「ヨハネに教えた力強い天使はイエス・キリストにほかならなかった。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホフ・コメント] 7 巻 971)

1. 賢い者は輝くでしょう 日曜日 5月10日

- a. ダニエルの最後の幻の終わりに明らかにされた試練と勝利について述べなさい (ダニエル書 12:1, 2)。
- b. その日、賢い者は悪人と比べてどのように見られるでしょうか (ダニエル書 12:3; マタイによる福音書 13:41-43)。

「改心した魂はキリストのうちに生きる。彼の闇は過ぎ去り、新しい天来の光が彼の魂の中を照らす。『魂を勝ち取るものは賢い』。『賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星ようになって永遠にいたるでしょう。』人と神の協力を通してなされることは、永遠に滅びることがない働きであり、永遠の年月を通じて続くのである。神を自分の知恵とする人、キリスト・イエスにある満ち満ちた人の高さにまで成長する人は、諸王の前に、世のいわゆる偉人と呼ばれる人々の前に立ち、自分を闇から驚くべき光へと導き入れて下さった方を賛美する。科学と文学は、人の暗くなった思いに、神の御子の栄光に輝く福音がもたらす光をもたらすことはできない。神の御子だけが、魂を照らすという偉大な働きができるのである。パウロが次のように叫ぶのもっともである。『わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。』キリストの福音は信じる人々のうちにあつて個性となる。そして彼らを生きた手紙とし、すべての人に知られ、読まれるようになるのである。」(クリスチャン教育の基礎 199, 200)

- a. ダニエルは今、何をどのように指示されましたか（ダニエル書 12:4（上句）, 8, 9（上句））。

「ダニエルは国事の責任と、世界を支配する王国の機密を託されて人間の榮譽を受けたが、神からは神の使者として榮譽を賜わり、来たるべき時代の秘密について多くの啓示を受けたのである。ダニエル書 7 章から 12 章に彼が記した驚くべき預言は、預言者ダニエル自身でさえ十分に理解することができなかった。しかし彼は、その生涯の働きを終わる前に祝福された確証が与えられた。『定められた日の終りに立って』、すなわちこの世界歴史の終局において、彼はふたたび立ってその分を受けるのであった（同 12:13）。彼は啓示された神のみこころを、すべて理解することは許されなかった……

この世界の歴史の終末が近づくにつれて、ダニエルが記した預言はわれわれが住んでいる時代そのものに関するものであるから、特別に注意を払わなければならない。それとともに、新約聖書の最後の書の教えを結びつけなければならない。」（国と指導者下巻 156、157）

- b. 天使の言葉が 2300 日の神秘を指し示していたことを示すのは何ですか、そしてその神秘はいつ明らかになるのでしょうか（ダニエル書 8:17; 12:4, 9（下句））。

「預言は、審判が始まるまでに相次いで起こる種々の事件を示している。特にダニエル書がそうである。しかし、ダニエルは、最後の時代に関する預言を、『終りの時まで』秘し、封じておくように命じられた。この時が来るまで、これらの預言の成就に基づいて審判に関するメッセージを宣布することはできなかった。しかし、終わりの時に、『多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう』と預言者は言っている（ダニエル書 12:4）。

1798 年以來、ダニエル書は封を開かれ、預言の知識は増加し、審判の切迫という厳粛なメッセージを多くの者が宣言したのである。

16 世紀の大宗教改革と同様に、再臨運動は、キリスト教世界の各国で同時に起きた。ヨーロッパとアメリカの両方で、信仰と祈りの人々が、預言を学び、聖書を研究して、万物の終末が近いという確かな証拠を認めた。各地において、孤立したキリスト者の諸団体が、聖書の研究だけによって、救い主の再臨が近いと信じるに至った。」（各時代の争闘下巻 50、51）

- a. ダニエルが見聞きしていた時、どのような厳粛な宣言が終わりの時までの期間を定めていたでしょうか (ダニエル書 12:5-7)。
- b. 他の聖句と相互参照することによって、この預言的な期間の時期を特定しなさい (ダニエル書 7:25; ヨハネの黙示録 11:2, 3; 12:6, 14; 13:5)。

「使徒パウロは、彼の時代にキリストが来られると期待しないようにと、教会に警告した。『まず背教のことが起り、不法の者……が現れるにちがいない』と彼は言っている (テサロニケ第二 2:3)。大背教が起り、『不法の者』の長い支配期間の終わったあとで、初めてわれわれは、主の再臨を期待することができる。『不法の秘密の力』『滅びの子』とも言われている『不法の者』とは、1260年の間、至上権をふるうと預言された法王権のことである。この期間は、1978年に終結した。キリストの再臨は、この時より前には起り得ないのであった。パウロは、1798年までに及ぶキリスト教時代全体を、彼の警告の中に含ませている。キリスト再臨のメッセージが宣布されるのは、その時以後になるのである。」(各時代の争闘下巻 50)

- c. 天使は1260年の期間をどのように述べましたか (ダニエル書 12:10 (上句))。

「十三世紀に、法王制の機関中で最も恐ろしいもの、すなわち宗教裁判所 (異端審問所) が設けられた。暗黒の君は、法王制の指導者たちと共に働いた。彼らの秘密会議においてサタンとその天使たちが、悪人たちの心を支配した。しかしそれと同時に、人の目にこそ見えなかったが、神の天使がそのただ中に立ち、彼らの不法な命令の恐るべき記録をとり、とうてい人間の目が見るに耐えない恐ろしい行為の記録を記していたのであった。『大いなるバビロン』は『聖徒の血に酔いしれた。』無数の殉教者たちの寸断された体は、この背信した権力に対する神のふくしゅうを叫び求めた……

ローマ教会の権力下にあった世界の状態は、預言者ホセアの言葉の恐ろしくも的確な成就である。『わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨て、……あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる』『この地には真実がなく、愛情がなく、また神を知ることもないからである。ただのろいと、偽りと、人殺しと、盗みと、姦淫することのみで、人々は皆荒れ狂い、殺害に殺害が続いている』(ホセア書 4:6,1,2)。これが神の言葉を捨てた結果であった。」(各時代の争闘上巻 57, 58)

- a. ダニエル書 12:7 との類似点に注目して、預言者ヨハネはダニエルの封印された幻が開かれるのをどのように見ましたか (ヨハネの黙示録 10:1, 2, 5, 6)。

「ヨハネに教えた力強い天使はイエス・キリストにほかならなかった。右足を海の上に、左足を地の上に踏み下ろしていることは、迫りつつあるサタンとの大争闘の場である地上でこのお方が果たそうとしている働きを示している。この位置は全地を支配するこのお方の絶大な力と権威を示している。…

ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は世界に伝えられなければならない第一、第二、第三天使のメッセージの中で適切な場所を占めるのである。開かれた小さな巻物は、時に関するメッセージであった。…

天使が厳粛な誓いをもって宣言しているこの時というのは、この世界歴史の恵みの時の終わりではなく、預言的時の終わりの事であり、それは主の再臨に先行するものである。つまり人々は特定の時について別のメッセージを持たないであろう。1842 年から 1844 年までに及ぶこの期間の後には、特定の預言的時を追求することはあり得ない。最長の算定は 1844 年の秋に達する。

一つの足を海の上に、他の足を地の上に踏み下ろしている天使の位置は、そのメッセージが広い範囲にわたって宣布されることを意味している。それは広い海を渡り、他の国々へ、世界の果てまで伝えられるであろう。」(SDA パイブル・コメント [E・G・初作・コメント] 7 卷 971)

- b. ヨハネが幻の中で小さな巻物を食べるという経験が、1840 年代の再臨運動の経験とどのように類似していたかを説明しなさい (ヨハネの黙示録 10:9-11)。

「小さい巻物を食べるという描写は、真理を理解し、メッセージを喜んで受け入れることを意味している。わたしたちの主の到来の時に関する真理は、わたしたちの魂にとって尊いメッセージであった。」(同上)

「期待した時は過ぎた。しかし、キリストは、民を救うためにおいではならなかった。真実の愛と信仰をもって救い主を待望していた人々は、苦い失望を味わった。しかし、神のみ心は、なされつつあったのである。神は、主の再臨を待つと言っていた人々の心を試しておられた。…

しかし、イエスと天の全軍は、試練を受け、忠実でありながらも失望に陥っている人々を、愛と同情をもって見つめていた。もし、見える世界と見えない世界を隔てる幕が取り除かれたならば、天使たちがこれらのしつかりした魂に近づき、彼らをサタンから守っているのが見えたことであろう。」(各時代の争闘下巻 73)

- a. ダニエルは彼の同世代の一人であるエゼキエルからどのように述べられていますか (エゼキエル書 14:14)。
- b. ダニエルがそうであったようにわたしたちもどのようにすれば賢い者の間にいることができますか (ダニエル書 12:10 (下句); 箴言 9:10; マタイによる福音書 7:24, 25)。

『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである。現実の困難というものは、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、われわれの前にある危機の場合は、そうではない。どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。この試練の時に、人間は、みな、自分で神の前に立たなければならない。『主なる神は言われる、わたしは生きている、たといノア、ダニエル、ヨブがそこにいても、彼らはそのむすこ娘を救うことができない。ただその義によって自分の命を救いうるのみである』(エゼキエル書 14:20)。

今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」(各時代の争闘下巻 396、397)

- c. 天使は最終的にどのようにしてダニエルを解任しましたか (ダニエル書 12:13)。

個人的な復習問題

金曜日 5月15日

1. ダニエル書 12:2 の復活はいつ行われますか。
2. ダニエルの預言が封印を解かれたのは何が起こったためですか。
3. 終わりの時の始まりを示す出来事は何ですか。
4. ダニエル書が開かれることを示したのはどの預言ですか。
5. どのようにすれば自分が賢い者の間にいることを確信できるでしょうか。

パトモス島の預言者

暗唱聖句：「弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。」(ヨハネ 13:23)

推奨文献： 患難から栄光へ下巻 241 - 248

「キリストの昇天後、ヨハネは主のための忠実で熱心な働き人として目立った存在となった。」(患難から栄光へ下巻 249)

1. イエスが愛された弟子

日曜日 5月17日

- a. 弟子のヨハネがイエスと親密だったことを示す例は何ですか (マタイによる福音書 17:1; マルコによる福音書 14:33; ルカによる福音書 8:51)。

「〔ヨハネ〕はキリストとの友情を、最高にたのしく味わったように見える。たしかに彼は、救い主の信頼と愛のしるしを豊かに受けたのである。彼は、変貌の山でのキリストの栄光と、ゲッセマネでのキリストの苦悩を目撃することを許された三人のうちの一であった。また、キリストが十字架にかけられた最後の苦しみの時に、キリストが母の世話をお託しになったのも、ほかならぬヨハネにであった。」(患難から栄光へ下巻 241)

- b. どのようにヨハネは弟子たちの中で際立っていましたか (ヨハネによる福音書 13:23; 21:20 (上句), 24)。

「ヨハネとヤコブ、アンデレとペテロは、ピリポ、ナタナエル、マタイといっしょに、ほかのだれよりも親しく、イエスとまじわり、イエスの奇跡を、だれよりも多く目に見てきた。中でもペテロとヤコブとヨハネは、一層イエスと親しい関係にあった。彼らは、ほとんどたえまなくイエスといっしょにいて、その奇跡を見、そのみことばを聞いてきた。特にヨハネは、イエスと親しかったので、イエスから愛される者として目立っている。救い主は、彼らをみな愛されたが、ヨハネが最も感受性の強い心を持っていた。彼はほかの人たちよりも年が若く、ほかのだれよりも子供のようにつつみかくしのない信頼をもって、イエスに心を開いた。このようにヨハネは、イエスに対してだれよりも心をよせていたので、彼を通して、救い主の最も深い霊的な教えが、イエスの民に伝えられた。」(各時代の希望上巻 376、377)

- a. イエスがヨハネとその兄弟ヤコブに与えた名前にはどのような意味がありましたか (マルコによる福音書 3:17)。

「ヨハネは、のちの経験にあらわれているような美しい品性を生まれつき持っていたのではなかった。彼には生まれつきのひどい欠点があった。高慢で、身勝手に、名誉欲が強かったばかりでなく、激しい性質で、侮辱されると憤慨した。彼とその兄弟たちは『雷の子』と呼ばれていた。短気、復讐心、批判的精神といったようなものがすべてこの愛された弟子の中にあつた。しかしこうしたすべてのものの下に、天来の教師イエスは、熱心で、誠実で、愛すべき心を認められた。イエスは彼の身勝手を譴責され、彼の野心をくじいて、信仰を試めされた。しかしイエスは、ヨハネの魂が求めていたもの、すなわち、聖潔の美、愛の改変力を彼にお示しになった。」(患難から栄光へ下巻 242)

- b. どのようにヨハネは他人と関わる新しい方法を学びましたか (ヨハネによる福音書 13:34; ヨハネの第一の手紙 4:7, 8)。

「キリストの教えは、恵みに成長し、みわざにふさわしいものとなるために欠くことのできない柔和と謙遜と愛を説くもので、ヨハネに最も貴重なものとなった。彼は一つ一つの教えを大事にして、絶えず自分の生活を聖なる模範に一致させる努力をした。ヨハネはキリストの栄光を見分けはじめていた。彼がこれまで追い求めるよう教えられてきた世的なはなやかさや権威ではなく、『父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまこととに満ちて』いるものであつた (ヨハネ 1:14)。」(同上 246)

- c. 同胞に対する愛に満ちた心もたらす結果を述べなさい (ヨハネの第一の手紙 3:10, 11; ヨハネによる福音書 13:35)。

「キリストに対するヨハネの愛情の深さと熱烈さは、ヨハネに対するキリストの愛を引き起こしたのではなく、かえってヨハネに対するキリストの愛の結果生じたものである。ヨハネはイエスのようになりたくと望んだ。そして、キリストの愛の人間を変える感化力のもとに、彼は柔和で謙遜になった。自己はイエスの中に隠された。ヨハネは仲間たちのだれよりも、その不思議ないのちの力に服従した。...ヨハネは体験的な知識によって救い主を知った。主の教えが彼の魂に刻みつけられた。彼が救い主の恵みをあかししたとき、彼の単純な言葉は、全身に満ちた愛により雄弁になった。」(同上 247)

3. パトモス島へ追放される

火曜日 5月19日

- a. ヨハネの命を奪おうとする試みが失敗した後、彼は最終的にどこに送られたのでしょうか (ヨハネの黙示録 1:9)。

「ヨハネは... 信仰を試みられるためにローマに呼び出された。その当局者たちの前で、使徒の教理は誤って述べられた。偽りの証人たちは、扇動的な異端を教えているとして彼を告訴した。こうした告訴によって敵はこの弟子を死刑にさせたいと願った。

ヨハネは明瞭に、説得力を持って弁明した。しかも非常に単純、率直であったので、彼の言葉には力強い効果があった。聞く者たちは彼の知恵と雄弁に驚いた。しかし彼のあかしに説得力があればあるほど、反対者たちの憎しみは深まった。

...

ヨハネは煮えたぎる油の大がまの中に投げ込まれた。しかし主は、燃えさかる炉の中の三人のヘブル人を守られたように、この忠実なしもべのいのちを守られた。こうして欺瞞者ナザレのイエス・キリストを信じる者たちはみな滅びると、言葉が語られたとき、ヨハネは、わたしの主は、サタンとその天使たちが主を辱め苦しめようと計るすべてのことを、辛抱強く受けられるのであると、言明した。キリストは世を救うために命をささげられた。わたしは主のみわざのために苦しむことを許され、光榮である...

これらの言葉には影響力があった。ヨハネは、彼を大がまに投げ込んだ同じ男たちによって、大がまから出された。...

皇帝の命令によりヨハネは有罪を宣告されて、パトモス島に追放された。...

ここではもはやヨハネの影響力は及ばず、やがて彼は困難と失望のうちに死ぬにちがいないと、彼の敵たちは思った。」(患難から栄光へ下巻 272、273)

- b. 彼の追放はどのような貴重な特権をもたらしましたか (ヨハネの黙示録 1:1-3, 10, 11)。

「パトモスはエーゲ海にある不毛の、岩の多い島であり、ローマの政府により犯罪者の流刑の場所として選ばれていた。しかし神のしもべにとって、この陰気な住居は天にいたる道となった。ここで、生活の忙しい場面から、また、これまでの活発な働きから遮断されて、ヨハネは神とキリストと天使たちとの交わりを持ち、彼らから今後の教会のための指示を受けたのである。この世界歴史の終末の場面にこる諸事件のあらましが、彼の前に示された。そしてヨハネは、そこで神から受けた幻を書きしるしたのである。」(同上 273、275)

- a. パトモスで幻のうちにキリストはどのようにヨハネに現れましたか（ヨハネの黙示録 1:12-16）。

「愛されたこの弟子」は豊かな恵みにあずかっていた。彼は、ゲッセマネで主を見ていた。主のみ顔は苦... 悩の血のしたたりを残していた『主の顔だちは、そこなわれて人と異なり... その姿は人の子と異なっていた』（イザヤ書 52:14）。ヨハネは、ローマの兵士たちに捕らえられ、古い紫の衣を着て、いばらの冠をかぶったキリストを見ていた。カルバリーの十字架にかけられ、残酷な嘲笑と悪口を浴びせられたキリストを見ていた。今、ヨハネは、もう一度主を見ることを許された。しかしキリストの姿は、なんと違っていただろう。キリストはもはや、人々に軽蔑され、侮辱されている悲しみの人ではない。キリストは神々しく輝いた衣を着ておられる。... パトモスはよみがえられた主の栄光でまばゆく輝いている。」（患難から栄光へ下巻 286）

- b. ヨハネの反応はどのようなものでしたか、イエスは彼にどのような任務を持っておられましたか（ヨハネの黙示録 1:17-19）。

「ヨハネはあがめられた主のみ前で生きることができるよう力づけられた。それから驚いているヨハネの目の前に、天の栄光が開かれた。彼は神のみ座を見ることを許され、この世の闘争のかなたを見上げて、白い衣を着たあがなわれた者たちの群れを見た。ヨハネは天使たちの音楽と、小羊の血によって勝利した人々の勝利の歌と、彼らのあかしの言葉を聞いた。彼に与えられた黙示には、神の民が経験する胸をおどらせるような興味深い場面が次々に展開され、教会の歴史が終わりの時まで予告された。数や象徴で、非常に重要な事がヨハネに示された。そしてヨハネは、彼の時代や未来の各時代に生きる神の民が、やってくる危難や闘争を賢明に理解することができるように、それを記録しなければならなかった。」（同上 286、287）

- c. 黙示録の書はどのような点でわたしたち個人へのメッセージとなっていますか（ヨハネの黙示録 1:4-6; 3:22）。

「この黙示は、紀元後の全時代にわたって教会を導き慰めるために与えられたのであるが、それでも宗教家たちは、それが封じられた書物であって、その秘密は説明できないと主張してきたのである。そのために多くの者たちは、その預言的記録から身をそらし、時間をかけてその奥義を研究することを拒んだ。しかし神は、その民がこの書をそのようにみなすようには望んでおられない。」（同上 287）

- a. 七つの金の燭台の間にキリストがおられたことは何を意味するのでしょうか(ヨハネの黙示録 1:20)。

「キリストは金の燭台の間を歩いているように述べられている。これはキリストと教会の関係を象徴したものである。キリストは絶えずその民と交わっておられる。主は彼らの真の姿を知っておられる。彼らの状態、敬虔さ、献身を見ておられる。主は天の聖所の司祭であり、仲保者であるが、地上にあるご自分の教会の間を歩くかたとして表されている。キリストはたゆまず目をさまし、絶えず気を配りながら、見張り番の灯が暗くなったり消えたりしないように見守っておられる。もし燭台が単に人間にゆだねられるなら、ゆらめく炎は衰えて消えてしまうであろう。しかしキリストは主の家の真の見張りであり、宮廷の真の番人である。キリストの絶えざる守りと恵みによる支えは、いのちと光の源である。」(患難から栄光へ下巻 290、291)

- b. 黙示録 2 章と 3 章の七つの教会で表される、教会全体に対する神のメッセージの目的を述べなさい。

「七つの教会の名は、西暦紀元の異なる時代における教会を象徴している。七の数字は完全を表し、これらのメッセージが時の終わりまで及んでいることを象徴している。また、用いられている象徴は、この世界歴史におけるそれぞれ異なる時代の教会の状態を表している。」(同上 290)

「教会は不完全で、きびしい譴責やこらしめが必要であった。そこでヨハネは、福音の根本的な原則を見失って救いの望みを危くしている者たちに、警告し、譴責し、懇願する使命を、靈感を受けて書いたのである。しかし、神が、必要と考へて送られる譴責のことばはいつでも、やさしい愛により、後悔している信者一人一人に平安の約束を与えて語られる。」(同上 292)

個人的な復習問題

金曜日 5月22日

1. イエスはえこひいきされなかったにも関わらず、なぜヨハネは愛された弟子と呼ばれたのでしょうか。
2. ヨハネの人生と品性に变化をもたらしたのは何でしょうか。
3. 神はどのようにして、ヨハネを排除しようとした邪悪な人々の目的を覆されましたか。
4. しばしば誤って封印された書と呼ばれていますが、黙示録はわたしたちにとってどのような意味を持っていますか。
5. 神が教会に譴責のメッセージを送られた目的を述べなさい。

龍、女、残りの民

暗唱聖句：「龍は、女に対して怒りを発し、女のすえの残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために出て行った。」（黙示録 12:17）

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 343 - 357

「非常に大きな犠牲を払って得られた良心の自由は、もはや尊重されなくなる。まもなく起ころうとしている争闘において、われわれは預言者の言葉の成就を見るのである。」（各時代の大争闘下巻 357）

1. 教会の啓示

日曜日 5月24日

- a. ヨハネの四番目の幻の初めに何を見せられましたか（ヨハネの黙示録 12:1）。
- b. 聖書の象徴では女は何を表しているでしょうか（コリント人への第二の手紙 11:2; エゼキエル書 23:2-4; ヨハネの黙示録 17:3-6）。

「黙示録 17 章には、バビロンは女であるといわれている。女は、聖書では教会の象徴として用いられている。純潔な女は、純潔な教会であり、汚れた女は、背教した教会を表わしている。

聖書では、キリストとキリストの教会との間の神聖で永続的な関係を、結婚の契りで表わしている。主は、厳粛な契約によって、ご自分の民をご自分に結びつけられ、ご自分が彼らの神になることを約束された。そして彼らは、自分たちが神のものとなり、神だけのものになることを誓ったのである。神はこう言われる。『わたしは永遠にあなたとちぎりを結ぶ。すなわち正義と、公平と、いつくしみと、あわれみとをもってちぎりを結ぶ』（ホセア書 2:19）。そしてまた、『わたしはあなたがたの夫だからである』と言っておられる（エレミヤ書 3:14）。パウロも新約聖書において、同じ象徴を用いて、『あなたがたを、きよいおとめとして、ただひとりの男子キリストにささげるために、婚約させたのである』と言っている（コリント第二 11:2）。」（各時代の大争闘下巻 82）

- a. 教会はメシヤの誕生を待ち望みつつ、どのような苦難を経験しましたか (ヨハネの黙示録 12:2; イザヤ書 9:6; ルカによる福音書 2:25-32)。

「ヤコブが死の床にあって、『つえはユダを離れず、立法者のつえはその足の間を離れることなく、シロの来る時までには及ぶであろう』と語ったことばが、彼らの心を望みで満たした (創世記 49:10)。イスラエルの衰えて行く勢力はメシヤの来臨が近づいている証拠だった。ダニエルの預言には、地上のすべての王国ののちにキリストが一つの王国を栄光のうちに統治されることがえがかれていた。そして、『この国は立って永遠にいたるのです』とダニエルは言った (ダニエル書 2:44)。キリストの使命の本質を理解している人は少なかったが、その一方では、イスラエルに王国をたて、救済者として諸国民にのぞまれる偉大な君に対する期待が一般にひろがっていた。

時は満ちていた。人類は罪とがの幾時代を経てますます墮落し、あがない主の来臨が必要であった。」(各時代の希望上巻 25)

- b. 大きな赤い龍はどのような国家権力を表していますか (ヨハネの黙示録 12:3)。

「神の律法を踏みつけ、神の民の迫害に特に携わった地上の国々が、大きな龍、ひょうのような獣、小羊のような角を持った獣などの象徴によってヨハネに示された。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 972)

- c. この龍のような勢力のために、教会とメシヤはどのような危機に直面したのでしょうか (ヨハネの黙示録 12:4)。

「サタンは、天と地との間に越えることのできない深いみぞをつくるために働いてきた。彼は人々をだまして大胆に罪を犯させてきた。神の寛容を尽きさせ、人類に対する神の愛を失わせて、神がこの世をサタンの支配するまに見捨てられるようにしようとするのがサタンの目的であった。」(各時代の希望上巻 25)

「サタンは天にいたとき、神の宮廷におけるキリストの地位のことでキリストを憎んでいた。彼は自分自身はその地位から退けられると、ますますキリストを憎んだ。彼は罪人である人類を救うことを誓われたおかたを憎んだ。それでも神は、サタンが主権を主張しているこの世へ、み子イエスが人間の弱さを受けつぐ無力な赤ん坊としておいでになることをお許しになった。神はイエスが、すべての人と同じように人生の危険に会い、すべての人間と同じに失敗と永遠の損失をかけて戦いをたたかわれることをお許しになった。」(同上 35)

- a. 過去におけるどのような洞察がヨハネに明らかにされましたか。またそれは何を意味していましたか（ヨハネの黙示録 12:7-9）。

「神の立法に対する反対が天の宮廷で、おおうことをなすケルブ、ルシファーから始まった。サタンは、天の会議で一番に、神と等しくなろうと決心した。彼は自分の配下にある天使たちと共に反逆の働きを開始し、不満の精神を彼らのうちに拡散しようとした。そして彼があまりにも欺瞞的な方法で働いたため、彼の目的が十分に知られる前に天使たちの多くが、彼の忠誠の側に勝ち取られた。忠実な天使たちでさえ、彼の品性も、彼の働きがどこへ導くのかも十分に識別することができなかった。サタンが多くの天使たちを自分の側に引き込むことに成功したとき、彼は自分の大義を神に持ち出し、キリストが占めていた立場を自分が占めることが天使たちの願いだと言って提示した。

悪は、不満の精神が実際の反乱へ熟するまで働きを続けるのであった。それから、天で戦争があり、サタンは、彼に同情したすべての者と共に追放された。」（SDAバブル・コメンタリー [E・G・柯什・コメント] 7巻 972, 973)

- b. ヨハネの黙示録 12:10, 11 にある宣言は、どのようにサタンの追放が完成したのは、イエスの公生涯の間であったことを示唆していますか。

「預言の目をもって、キリストはご自分の最後の大争闘に起こる場面をたどられた。キリストは、ご自分が『すべてが終った』と叫ばれる時に、全天が勝利することを知っておられた（ヨハネ 19:30）。主の耳は、天の宮廷における遠くの音楽と勝利の叫びをとらえた。その時サタンの王国では葬式の鐘が鳴らされ、一方キリストのみ名は宇宙の世界から世界へと告げ知らされることを、主はご存じであった。」（各時代の希望下巻 169, 170)

「贖罪の計画は、人類の救済より、もっと広く深い目的をもっていた。キリストが地上に来られたのは、人間を救うためだけではなく。この小さな世界の住民が、神の律法に対して当然払わなければならない尊敬を払うようになるためだけではなく。それは、宇宙の前で、神の性質を擁護するためであった。 . . . 人間の救いのためにキリストが死なれた行為は、人間が天にはいる道を開いたばかりでなく、神とみ子が、サタンの反逆に対して取られた処置の正当性を全宇宙の前に示すのであった。それは、神の律法の永遠性を確立し、罪の性質とその結果を明らかにするのであった。」（人類のあけぼの上巻 61, 62)

- a. 増し加わるどの危険が、いま教会に提示されますか（ヨハネの黙示録 12:12, 13）。

「サタンは、自分の奪った帝国がついには、自分から取り上げられることを知っており、神がご自分のみかたちに創造された被造物をできる限り多く滅ぼすためにはどんな苦勞も惜しまないと決心している。彼は、キリストが人間にこれほどの許しの愛と哀れみをあらわしておられるがゆえに、人間を憎んでいる。そして、彼は人間が失われるようにとあらゆる種類の欺瞞を人間に対して実践している。彼は自身自身の希望のない状態のゆえに、ますます精力をもって自分の道をつぎ進んでいる。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コト] 7 巻 973, 974）

「善と悪との大争闘は、時の終わりにいたって、ますます激しさを加えるのである。すべての時代において、サタンの怒りはキリストの教会に向けられてきた。そして神は、ご自分の民がサタンの勢力に対して強く立つことができるように、恵みと霊を与えてこられた。キリストの使徒たちが、福音を世界に伝え、またそれを将来の時代のために記録しなければならなかった時、彼らは聖霊による光を特別に与えられた。しかし、教会が最後の救いに近づくにつれて、サタンはますます強い力をもって働くのである。...この長年の争闘の間に、サタンが身につけた腕前と狡猾さ、またその間にますますひどくなった残虐さの、あらんかぎりをつくして、彼は最後の争闘において神の民に迫るのである。この危機の時に当たって、キリストに従う者たちは、主の再臨の警告を世に伝えねばならない。そして民は、キリストがおおいでになる時、『しみもなくきずもなく』彼の前に立つことができるように、備えをしなければならぬ（ペテロ第二・3:14）。今日、神の恵みと力が特別にさづけられることは、使徒時代に劣らず必要なのである。」（各時代の争闘上巻（序 7））

- b. 1260 年間の圧迫と迫害の間の境界の経験を述べなさい（ヨハネの黙示録 12:6, 14）。
- c. 龍が忠実な者に対して用いようとする人間の攻撃をそらすために、どの助けが与えられましたか（ヨハネの黙示録 12:15, 16）。

「すべての人が自分の勤勞の実を享受し、良心の確信することに従うことができる国についての報道が、ヨーロッパの国々に伝わると、幾千という人々が、新世界アメリカの岸に群がった。」（同上 380）

- a. 龍の怒りが頂点に達するとき、忠実な者たちはどのように描写されていますか（ヨハネの黙示録 12:17）。

「エステルの時代に神の民を訪れた苦しい経験は、ただその時代だけのものではなかった。ヨハネは、時の終末に至るまでの各時代を眺めて言った。『龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った』（黙示録 12:17）。今日地上に住んでいる者の中に、こうした言葉が成就するのを見るのである。各時代において、人々に真の教会を迫害させた同じ精神が、将来も、神に忠誠をつくす者に対して同様の行動を取らせるに至るのである。現在でさえ、この最後の大争闘に対する準備が行われているのである。』（国と指導者下巻 208、209）

- b. 終わりの時代に、残りの民の特徴は、どのように述べられていますか（ヨハネの黙示録 14:12; 19:10）。

「残りの民の教会は、神の律法のうちに神を認め、預言的な賜物を持つ。神の律法と預言の霊への従順がいつも神の真の民を区別してきた。そしてテストはいつも、現在のあらわれに対して与えられるのである。」（ローマ・リンダ・メッセージ 33）

「残りの教会は、大きな試練と苦悩へ導かれる。神の戒めとイエスの信仰を持ちつづける人々は、龍とその軍勢の怒りを感じるようになる。サタンは世界を自分の臣下だとみなしており、彼は背教した諸教会の支配権を得てきたしかし、ここに彼の支配権に抵抗している小さい群れがいるのである。」（教会への証 9 巻 231）

「神の戒めに従うことへの拒絶、これらの戒めを宣布する人々への憎しみをいなく決意は、龍の側でもっとも断固とした戦争へと導く。彼の全精力は、神の戒めを守る民に敵対して動員されるのである。」（同上 8 巻 117）

個人的な復習問題

- なぜ教会は、聖書の中で、女によって象徴されているのですか。
- 神の御子が人としてこの地上に来るために引き受けられた危険を説明しなさい。
- いつ天からのサタンの追放が完全に成就しましたか。
- 教会に対する龍の怒りの理由を述べなさい。
- 残りの民を特定するときに、どの特徴を探しますか。

第一安息日献金 チェコ共和国プラハの祈りの家のために

チェコ共和国は、ヨーロッパのまさに中心に位置し、ドイツ、ポーランド、オーストリア、スロバキアと国境を接しています。この国土には、絵のように美しい村々、壮麗な城、そして豊かな文化と精神の遺産を有する歴史的なボヘミア地方があり、ヨハン・フス (1369-1415) が偉大な改革を開始した地でもあります。今日、チェコ共和国は約 1,090 万人の人口を擁する近代的な世俗国家であり、そのうち 140 万人以上が首都プラハに居住しています。

プラハは歴史的・文化的な中心地であるだけでなく、何千人もの人々が霊的な困窮のうちにあり、人生の意味、希望、そして心の平安を求めている場所でもあります。住民のうち、47.8%が無宗教、11.7%がキリスト教（うち 9.3%がカトリック、2.4%がその他のキリスト教宗派）、10.8%がその他の宗教を信仰しています。

この街における SDA 改革運動の活動は、2014 年 5 月に始まりました。最初の集会に集まったのは、わずか 3 人でした。その後、2020 年 8 月には、ある牧師とその家族が派遣され、失われた魂に救いのメッセージの現代の真理を宣べ伝えました。

現在、プラハ教会には 30 名の会員がおり、洗礼に関心を持ち準備中の者を含めると約 70 名です。礼拝は現在、借りたスペースで行われていますが、教会員たちは祈りの家―神の民が集まり、信仰を強め、真理の光を周囲の人々と分かち合う場所―を購入、あるいは建てる機会が与えられることを切に祈っています。

「神が礼拝される家は、このお方のご品性と尊厳に見あるものであるべきである。」
(教会への証 5 卷 268)

親愛なる兄弟姉妹の皆様、今日、私たちは神のこの偉大な御業に携わるという祝福された機会に恵まれています。皆様の献金は、永遠への、魂の救いへの、そしてヨーロッパの中心にある教会を強めるための投資です。神の導きを祈り、このプロジェクトを温かく支え、この必要を他の人々と分かち合ってください。愛をもってこの御業に携わる一人一人を主が祝福して下さいますように。

「わたしたちは祈の時にあなたがたを覚え、あなたがた一同のことを、いつも神に感謝し」(テサロニケ人への手紙第一 1:2)

プラハにいる皆さんの兄弟姉妹より

獣と刻印

暗唱聖句：「また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ」（黙示録 13:16）

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 157-172

「この象徴の持つ、小羊のような角と龍のような声は、ここで表わされている国家の宣言と実行との著しい矛盾を示すものである。」（各時代の大争闘下巻 161）

1. 合成された獣

日曜日 5月31日

- a. ヨハネの黙示録 13:1（上句）の中で、ヨハネは何を見ましたか。またダニエル 7:3 の研究の光の中でこれをどのように理解しますか。
- b. わたしたちが研究してきた四つの獣に関連するこの獣の身体的ないくつの特徴から、何を学ぶことができますか（ヨハネの黙示録 13:2；ダニエル書 7:4-6）。

「第 13 章（1 - 10 節）にはもう一つの獣が描かれていて、それは『ひょうに似ており、』龍は、『自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた。』この象徴は、たいていのプロテスタントが信じてきたように、かつて古代ローマ帝国が握っていた力と位と権威とを継承した法王権を表わしている。ひょうに似た獣について、次のように言われている。『この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、……そこで、彼は口を開いて神を汚し、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちとを汚した。そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。』ダニエル書七章の小さい角の描写とほとんど同じであるこの預言は、疑いもなく法王権を指している。」（各時代の大争闘下巻 158）

「ヨーロッパの多くの国々において、教会と国家を支配した諸権力は、幾世紀にもわたって、法王権を通して、サタンに支配されていた。」（各時代の大争闘上巻 344）

- a. この獣が支配的立場にあった時期に基づいて、どのようにこの獣の特徴が確立されましたか（ヨハネの黙示録 13:5; ダニエル書 7:25）。

『42 か月のあいだ活動する権威が与えられた。』そして、『その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けた』と預言者は言っている。また、『とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない』とある。42 か月は、ダニエル書 7 章の『ひと時と、ふた時と、半時の間』、つまり 3 年半、すなわち 1260 日と同じで、その期間のあいだ、法王権は神の民を圧迫するのであった。この期間は、すでに述べたように、法王権が至上権を握った紀元 538 年に始まり、1798 年に終わった。この時、法王はフランス軍の捕虜になり、法王権は致命的な傷を受けた。「とりこになるべき者は、とりこになっていく。」（各時代の 大争闘下巻 158）

- b. ひょうに似た獣の優位性は、どのように弱められていきますか（ヨハネの黙示録 13:3（上句）, 10）。

- c. 獣はどの行動をとるようになりますか（ヨハネの黙示録 13:6-8）。

「かつてローマ教会の支配を承認した国々におけるローマ教会の影響力は、なお破壊されずに強く残っている。そして預言にはその権力の回復が予告されている。『その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで全地の人々は驚きおそれて、その獣に従』った黙示録 13:3)。死ぬほどの傷を受けたとは、1798 年の法王権の失墜をさしている。この後、『その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従』つたと預言者は言う。パウロは『不法の者』が再臨の時まで存続するということをはっきり述べている（テサロニケ第二 2:3 - 8 参照）。時の終わりに至るまで、彼はその惑わしの働きを続けるのである。また黙示録記者は法王権に関して、『地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、その名……をしるざれない者はみな、この獣を拜むであろう』と述べている（黙示録 13:8）。旧大陸においても新大陸においても、ローマ教会の権威だけに基づいている日曜日制度をあがめることによって、人々は法王制に忠順の意を表明するのである。」（同上 338）

- a. 法王権が死ぬほどの傷を受けるとすぐに、どの新しい政治的権力が台頭するのが見られましたか（ヨハネの黙示録 13:11）。

「小羊のような角をもった獣は、『地から上って来る』のが見えたのであった。このように表わされる国は、自国を確立するために他の諸国を覆すのではなく、まだだれにも占有されていない領土に起こり、徐々にまた平和のうちに成長する国でなければならない。したがって、旧世界の込み合った争い合う国々の中、すなわち、あの『民族、群衆、国民、国語』の荒海の中からは起こり得ないのである。それは、西半球の大陸に求められねばならない。

1798年に、新世界のどんな国が、勢力を伸ばし、将来強大な国家になる可能性を示して、世界の注目を集めていたであろうか。この象徴が、どの国に適用されるかは、実に明白である。この預言の指示するところに合致する国は、ただ一つしかない。それは、疑いもなく、アメリカ合衆国を指している。弁論家や歴史家は、この国の起源と成長を描写するのに、無意識のうちに、聖書記者の思想を、またほとんど同じ言葉を、くり返し用いてきた。獣は、『地から上って来る』のが見えた。そして、翻訳者たちによれば、ここで『上って来る』と訳されている言葉は、字義どおりには、『植物のように成長する、または、生える』という意味である。そして、すでに見たように、その国は、どの国にも占有されていない領土に起こらなければならない。...

『それには小羊のような角が二つあつ』た。小羊のような角は、若々しさと無垢と温順さを示すもので、1798年に『上って来る』のを預言者が見たときの米国の性格をよく表わしている。最初、米国に逃れ、王の圧迫と司祭たちの迫害からの避難所を求めた亡命キリスト者たちの中には、政治的自由と宗教的自由の広い基盤の上に政府を樹立しようと決意したものが多くあつた。彼らの意見は、独立宣言の中に織り込まれ、『すべての人は平等に造られ、』『生命、自由、および幸福の追求』という奪うことのできない権利を与えられている、という偉大な真理の表明となっている。そして、憲法は、国民に自治権を保証し、一般投票によって選ばれた代議員が法律の制定と執行にあたるべきことを規定している。宗教の自由も保証され、すべての人は良心の命じるところに従って神を礼拝することが許されている。共和主義とプロテスタント主義が、国家の根本原則となった。これらの原則が、その権力と繁栄の秘けつである。全キリスト教国の、圧迫され踏みにじられた人々が、関心と希望を抱いてこの国に目を向けた。幾百万という人々がその岸辺にやって来て、米国は、世界で最も強い国の一つに数えられるまでになった。」（各時代の争闘 下巻 159 - 161）

- a. 小羊のような獣によって強化され、どのような衝撃的な発達が生じましたか (ヨハネの黙示録 13:12, 16)。

「この象徴の持つ、小羊のような角と龍のような声は、ここで表わされている国家の宣言と実行との著しい矛盾を示すものである。国家が『物を言う』とは、その立法および司法権の活動のことである。米国は、そのような行為によって、国家の方針の基礎として宣言した自由と平和の原則を裏切るのである。それが『龍のように』語り、『先の獣の持つすべての権力』を働かせるという預言は、明らかに、それが、龍やひょうに似た獣によって象徴される国々が表わした狭量と迫害の精神を持つようになるということを予告している。そして、二つの角を持った獣が『地と地に住む人々に、……先の獣を拝ませ』るという言葉は、この国が権力を行使して、法王権に対する礼拝行為となるような何かの遵守を強要することを示している。

このような行動は、この政府の原則、自由制度の精神、独立宣言の率直厳粛な言明、そして憲法に、全く相反するものである。米国の建国に当たった人々は、世俗の権力が教会のことに用いられて、その当然の結果として狭量と迫害が起こることを避けようと、賢明にも努めた。憲法には、『国会は、宗教の設立に関する、もしくはその自由な活動を禁ずる法律を制定してはならない』、また、『合衆国のいかなる公職につくに当たっても、その資格として、宗教的条件を課してはならない』とある。国民の自由を擁護するこれらの条項にはなほだしく違反することなしには、国権は、どんな宗教的法令も施行することはできない。」(各時代の犬争闘下巻 161、162)

- b. この獣の刻印の強制は、どのように米国の破滅となりますか (箴言 14:34; 詩篇 119:126)。

「浪費の一世紀一世紀が、怒りの日に対して、怒りを積み上げてきた。そしてその時がおとずれ、悪が満ちるとき、その時こそ神がご自分の異なるわざをなされるのである。神の忍耐を尽きさせてきたということが、恐るべきことであることがわかるようになる。なぜなら、神の怒りが非常にはつきりと、強く下り、憐れみの混じらないものとして表わされているからである。そして地上そのものから人がいなくなる。それは国家的な背信の時であり、サタンの方針にしたがって行動し、地の統治者たちが自ら不法の者の側の隊列に加わる時である。そのとき罪の升目は満ちる。国家的背信は国家的破滅のしるしである。」(エレクテッド・メッセージ 2 巻 373)

a. ローマ権力のしるしは何ですか(ダニエル書 7:25)。

「カトリックの著者たちも、カトリック教会の権威のしるしとして、『安息日を日曜日に変更したという、まさにその行為』を挙げ、それは『プロテスタントも承認している。…彼らは日曜日を守ることによって、祝祭日を制定し人々を罪に定める教会の権威を、認めているのである』と言っている。とするならば、安息日の変更は、ローマ教会の権威のしるし、あるいは刻印、すなわち『獣の刻印』でなくて何であろうか。…

「日曜日遵守が法律によって強いられ、真の安息日を守るべきことが世界に明らかにされるその時に、神の戒めを破って、単にローマの権威によるものにすぎないところの戒めに従う者は、それによって、神よりも法王教をあがめるものである。」(各時代の争闘下巻 169、171)

b. 対照的な運動のクライマックス—一つは真理について魂を啓発するもの、もう一つは獣の刻印を強制するもの—を述べなさい(ヨハネの黙示録 13:13-15; 16:13, 14; マタイによる福音書 24:14, 24)。

「教会は、政権の強大な権力に訴える。そして、この働きにおいて、カトリックとプロテスタントは提携する。日曜休業運動が、ますます大胆に、ますます断固として推進されるにつれて、戒めを守る人々に対して法令が発布される。彼らは、罰金や投獄をもって脅かされる。そして、ある者は有力な地位によって、また他の者は報賞や便宜の提供によって、信仰を放棄するよう勧誘される。しかし彼らは、断固として、『われわれが誤っていることを神の言葉によって示してほしい』と答えるのである。これは、同様の状況の下でルターが行なったのと同じ訴えである。法廷に呼び出された者たちは、真理の力強い弁明をする。そして、それを聞く者の中には、神のすべての戒めを守るという立場をとるように導かれる者が出てくる。こうして、他の方法ではこれらの真理を知ることができない幾千という人々の前に、光がもたらされるのである。」(同上 377)

個人的な復習問題

1. ダニエル書 7章の獣の特徴のいくつかは、どのようにローマに引き継がれましたか。
2. 1260年間の法王権の優位性があげられるいくつかの方法を振り返りなさい。
3. なぜ死ぬほどの傷が、獣の死へと至らせなかったですか。
4. 小羊のような角によって米国のどの固有な特徴が描かれましたか。
5. 今日日曜日に礼拝している人々はすでに獣の刻印を受けていますか。

三天使

暗唱聖句：「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続ける聖徒の忍耐がある。」（黙示録 14:12 欽定訳）

推奨文献： 初代文集 383 - 424

「わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階のメッセージを示された。わたしにつきそっていた天使は言った。『このメッセージをすこしでも変える者はわざわいだ。このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、このメッセージをどう受け入れるかにかかっている。』」（初代文集 420）

1. 黙示録における天使

日曜日 6月7日

- a. 天使たちによって象徴されている使命者のさまざまなタイプを比較し、対比しなさい（ヨハネの黙示録 1:20; 10:1, 5; 11:1; 22:8）。
- b. 神は地にいるすべての人に、どのようにメッセージを送っておられますか（ローマ人への手紙 10:13-15）。

「人々の中で神の代表者として、神は誤りを犯したことの無い天使をお選びになるのではなく、救いの対象とされている人々と同じ感情を持った人間をお選びになる。…そして男にも女にも『キリストの無尽蔵の富』を宣べ伝える仕事が、神からゆだねられているのである（エペソ 3:8）」（患難から栄光へ上巻 143）

「われわれは、キリストを世に紹介するのに、天使たちと共に働く者となるのである。…なぜなら人間が、人間と通信するチャンネルとならねばならないからである。だからわれわれが全心全霊をもってキリストに献身するときに、天使たちは、神の愛をあらわすのにわれわれの声を通して語ることができることをよこさるのである。」（各時代の希望上巻 385）

- c. ヨハネの黙示録 14:6-12 によって、だれが象徴されていますか。彼らの使命は何ですか（マタイによる福音書 28:19, 20; 使徒行伝 1:8）。

「天使たちは、中空を飛び、警告のメッセージを世に宣布する者として象徴されている。…だれもこれらの天使たちの声を聞く者はない。なぜなら、彼らは天の宇宙と調和して働く神の民を表す象徴だからである。」（レクテッド・メッセージ 2 巻 387）

- a. 第一天使は、そのメッセージをだれに伝えていますか (ヨハネの黙示録 14:6)。

「キリストの再臨が間近いという宣言のもとに、宗教的大覚醒運動が起こることが、黙示録 14 章の第一天使のメッセージの預言の中に予告されている。… 天使が、『中空を飛び、』『地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に』宣布するために、『大声』で言ったということは、この運動が急速で世界的範囲のものであることを証明している。」(各時代の大争闘下巻 49、50)

- b. 第一天使は、どのように創造主としての神に注意を呼びかけていますか (ヨハネの黙示録 14:7; 創世記 1:1; エペソ人への手紙 3:9)。
- c. 再臨運動が、どのように第一天使のメッセージと裁きを自分たちが伝えてきた間近に迫るキリストの再臨に適用したかを振り返りなさい (ダニエル書 7:26, 27; 8:14; 使徒行伝 17:30, 31)。

「ウィリアム・ミラーと彼の仲間、米国に警告を発する務めが与えられた。米国は、大再臨運動の中心となった。第一天使のメッセージが最も直接的に成就したのは米国であった。ミラーと彼の仲間の著書は、遠くの地方まで広まった。世界じゅうで宣教師が行っているところはどこでも、キリストがまもなく来られるという喜びの知らせが伝えられた。『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである』という永遠の福音のメッセージは、遠く広く伝えられた。」(各時代の大争闘下巻 65、66)

「1844 年の春にキリストの再臨があると指示するように思われる預言のあかしは、人々の心を強くとらえた。州から州へとメッセージが伝わるにつれて、至るところで広く人々の興味をわき立たせた。多くの者は預言の期間に関する議論の正しいことを認め、自分たちの意見を捨てて、喜んで真理を受け入れた。ある牧師たちは、教派的見解や感情を捨て、給料や教会も捨てて、イエスの再臨を宣言することに参加した。しかし、このメッセージを信じる牧師は、比較的少なかった。したがって、それは、質朴な一般信徒たちに大部分ゆだねられた。…神を敬わない教会や罪悪の中にある世界の状態は、真の見張人たちの心を悩ました。そして彼らは、人々を悔い改めと救いに導くために、喜んで労苦と窮乏と苦難に耐えた。働きは、サタンへの攻撃に会いながらも、徐々に進展し、幾千の者が再臨の真理を信じるようになった。」(同上 66)

- a. 第二天使は、公言するキリストの教会の霊的な状態について、なんと述べなければなりませんでしょうか（ヨハネの黙示録 14:8）。

「ぶどう酒とは何だろうか。彼女の偽りの教理である。彼女は第四条の戒めの安息日の代わりに、偽安息日を世に与えてきた。そしてエデンでエバに最初に告げた偽り一魂の生来の不滅一をくり返した。多種にわたる誤謬を遠く広範囲にひろめ、『人間のいましめを教として教え』ている（マタイ 15:9）。」（レクティド・メッセージ 2 巻 118）

「バビロンは、有毒な教理、誤謬というぶどう酒を育成してきた。この誤謬のぶどう酒は偽りの教理、すなわち生来の魂の不滅、悪人の永遠の責め苦、ベツレヘムでの誕生前のキリストの先在を否定すること、また神の聖なる聖別された日よりも週の第一日目を支持し高めることなどからできている。これらのまた類似した誤謬が様々な教会によって世に提示されている。こうして次のように言われている聖句が成就している。『すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み』。」（牧師への証 61, 62）

- b. どのように再臨運動を信じた信徒たちが、自分たちの最初の失望を理解したか、2300 日の真の終わりの発見、またメッセージを拒んだ人々から分離するようにとの召しを述べなさい（ハバクク書 2:3; マタイによる福音書 25:6）。

「最初、2300 日が終わると考えられた時と、後に、それが延長していると考えられた同年の秋との、その中間の 1844 年の夏に、ちょうど聖書の言葉どおり、『さあ花婿だ、迎えに出なさい』というメッセージが伝えられた。

この運動が起きたのは、2300 日の起算点であるところの、エルサレムを建て直せというアルタシャスタ王の勅令は、紀元前 457 年の秋に効力を発したのであって、以前に信じられていたように、その年の初めではなかったということが、発見されたからであった。457 年の秋から数えれば、2300 年は、1844 年の秋に完了する。」（各時代の争闘下巻 105）

「諸教会が、第一天使のメッセージを受けることを拒んだときに、彼らは、天からの光を拒否し、神の恵みを失った。彼らは、自分たち自身の力に頼った。そして、彼らは、第一天使のメッセージに反対することによって、第二天使のメッセージの光を見ることができない状態に陥ってしまった。しかし、神に愛された者たちは、圧迫に会い、『バビロンは倒れた』というメッセージを受け入れて、諸教会を去った。」（初代文集 390、391）

- a. 第三天使から、どんな驚くような警告が与えられましたか(ヨハネの黙示録 14:9-11)。

「これまで人類に与えられたことのない恐ろしい威嚇の言葉が、第三天使のメッセージの中に含まれている。あわれみを混じえない神の怒りをひき起こすものは、恐ろしい罪に違いない。この重大なことについて、人々は、無知のままであってはならない。この罪に対する警告は、神の罰が下る前に世界に伝えられなければならない。それはすべての者が、罰を受ける理由を知り、それを逃れる機会が与えられるためである。…預言の中で、それは、中空を飛ぶ天使によって大声で宣言されるものとして表わされている。そして、それは世界の注目をひくのである。」(各時代の大争闘下巻 171、172)

- b. 第三天使のメッセージの時に、聖徒たちは、どのように区別されますか(ヨハネの黙示録 14:12)。

「神の礼拝者たちは、特に第四条に関して区別される。なぜなら、これが神の創造の力のしるしであり、人の敬神と敬意をわがものと主張されることの証人だからである。…争闘の問題において、すべてのキリスト教世界は、二つの大きな階級に分かれるであろう。すなわち、神の戒めとイエスの信仰を持ちつづける者と、獣とその像とを拝み、その印を受ける者である。教会と国家がすべての人『小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも』獣の刻印を受けさせるために結合するにもかかわらず、神の民はそれを受けないのである。」(教会への証 9 卷 16, 17)

- c. 第三天使が起こることはどのように描写されていますか(ヨハネの黙示録 7:2, 3)。

「1848年11月マサチューセッツ州のドーチェスターで開催された集会にて、わたしは印する働き of の宣布について、またわたしたちの行く道に照らした光を印刷すべき兄弟たちの義務について幻が与えられた。

幻から出た後、わたしは夫に言った、『あなたのためにメッセージがあります。あなたは小さい紙面を印刷し、人々に送りはじめなければなりません。最初は小さくてかまいません。しかし、人々が読むにつれて、彼らがそれを印刷する資金を送ってくるでしょう。それは最初から成功します。この小さい始まりから、わたしは、それが世界中をはっきりとめぐる光の流れのようになることが示されました。』(ライフ・スケッチ 125)

- a. 第三天使の宣布の間に、信仰のうちに死んだ人々に関して、どのように祝福が宣言されていますか（ヨハネの黙示録 14:13; ダニエル書 12:2）。

「神がご自身の民を救おうとされた時は真夜中だった。悪人たちが聖徒たちのまわりであざけていると、突然光り輝く太陽が現れ、月は静止した。悪人たちは驚いてその光景を見上げたが、聖徒たちはそれを自分たちの救出のしるしとして、厳粛なよろこびをもって見守った。しるしと不思議が短時間につづいて起こった。何もかもが自然の軌道からはずれてしまったように思えた。川の流れはとまった。暗い濃い雲があらわれて互いにおつかり合った。しかし、一とこだけ栄光の輝く晴れ渡ったところがあって、そこから神のみ声 が、流れの音のように、天地をふるわせて聞こえてきた。大地震が起こった。墓が開かれた。そして、第三天使のメッセージを信じ、安息日を守って死んだ人々が、栄化された姿で土の 寝床から現れた。彼らは、神がご自身の律法を守った人々と結びたもう平和の契約を聞くのであった。」（初代文集 460）

- b. 三天使のメッセージの結末に、何が起こりますか（ヨハネの黙示録 14:14-16; マルコによる福音書 4:26-29）。

「わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持ったひとりの天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて封印された。すると、それまで十誡の納められている箱の前で奉仕しておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、『事はすでに成った』と言われた。」（同上 452）

個人的な復習問題

金曜日 6月12日

1. なぜ神は、福音宣布を人間の代理人に左右されるものにされたのですか。
2. 第一天使のメッセージは、どのように世界中に伝えられましたか。
3. 第二天使のメッセージが与えられた理由を述べなさい。
4. 第三天使のメッセージは、どの区別を強調していますか。
5. 三天使のメッセージが完結したのち、どの出来事が起こりますか。

最後の召し

暗唱聖句：「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」（黙示録 18:1）

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 371 - 383

「福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。」（各時代の大争闘下巻 382）

1. **大いなるバビロン** 日曜日 6月14日

- a. 大いなるバビロンとして知られている教会について、ヨハネが見た劇的な光景を述べなさい（ヨハネの黙示録 17:1-6）。

「黙示録 17 章の女（バビロン）は、…『この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと…汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、『大いなるバビロン、淫婦どもの母』というのであった。 …幾世紀にもわたって、キリスト教国の君主たちの上に独裁的支配を維持した権力は、ローマである。紫と赤、金と宝石と真珠は、華麗な王権にまさる豪華さを誇ったローマ法王権を鮮やかに描写している。また、キリストに従う者を残酷に迫害したこの教会ほど、『イエスの証人の血に酔いしれている』ということが当てはまる権力はほかにない。またバビロンは、『地の王たち』と非合法的関係を結んだと非難されている。ユダヤの教会が淫婦になったのは、主を離れ、異邦人と同盟を結んだためであったが、ローマも同様に、俗権の支持を求めて墮落し、同様の非難を受けている。」（各時代の大争闘下巻 83、84） [著者強調]

- b. この権力は、どのようにその終わりを迎えますか（ヨハネの黙示録 17:15-18）。

a. ヨハネの黙示録 18:1 に現われる天使の到来を述べなさい。

「三天使のメッセージは結合されるべきであり、その三重の光を世界に与えるべきである。黙示録の中で、ヨハネは『わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた』。〔黙示録 18:2-5 引用〕。これは最後にして三重の警告のメッセージを世界に与えることを表している。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・柯什・コメント] 7 卷 985)

「教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには『天上にあるもろもろの支配や権威』に対してさえも十分明らかに示されるのである(エペソ 3:10)。」(患難から栄光へ上巻 1)

b. 天使の栄光は何を意味しますか。またそれはどのように表れますか(詩篇 29:1, 2; ヨハネによる福音書 17:22, 23)。

「品性建設がおろそかになり、魂の麗しさが欠けて単純な信心深さが軽べつされるときに、誇りと虚飾を愛好する心は壮麗な教会の建物、りっぱな装飾、印象的儀式などを要求するのである。しかし、こうしたすべての事において、神に栄光が帰せられていないのである。神はその外見的優位ではなくて、教会を世俗から区別する誠実な敬神の念によって、教会を評価されるのである。神は教会員がキリストの知識に成長し、霊的経験に進むことによって教会を評価されるのである。」(国と指導者下巻 172)

c. モーセが神の栄光を見せてほしいと求めたとき、神は、ご自身の栄光をどのように表現なさいましたか(出エジプト記 33:18, 19; 34:5-7)。

「神の属性の栄光が、彼の品性にあらわされている。聖書のどのページも神の光に輝いている。キリストの義は、純粋な白真珠のように、しみも傷もない。どんな人間の技術をもってしても、この偉大で尊い神の賜物をそれ以上にすぐれたものにはできない。それには、一つとしてきずがない。」(キリストの実物教訓 92)

「このご品性は、キリストのご生涯においてあらわされた。それはこのお方ご自身の模範が、肉において罪を罰することができるように、このお方はご自身の身に罪深い肉なる様を取られた。絶えず神のご品性を眺めておられた。絶えずこのお方はこのご品性を世に表しておられた。

キリストはご自分に従う人々が自分の生活の中で、この同じ品性を現わすことを望んでおられる。」(神の驚くべき恵み 322)

- a. 御使は、バビロンに住む人々に何と述べていますか (ヨハネの黙示録 18:2)。

「この天使には大いなる力と栄光がさずけられた。彼がくだっていくと、地上はその栄光に照らされた。この天使が強い声で、力をこめて叫んだとき、…第二の天使によって与えられた、バビロンが倒れたという使命は、1844 年以來教会に入りこんでいる墮落についての警告がつけ加えられて、くりかえされている。」(初代文集 448)

- b. 第一天使のメッセージが最初に宣布された時以來、バビロンに、どのような変化が起こることになっていますか (ヨハネの黙示録 18:3)。

「黙示録 14 章の第二天使のメッセージは、最初、1844 年の夏、宣べ伝えられた。そして、それは当時の米国の諸教会に直接当てはまるものであった。米国においては、審判の警告が最も広く宣言されたにもかかわらず、大部分の教会はそれを拒否して、急速に墮落してしまった。しかし、第二天使のメッセージは、1844 年に完全な成就を見たのではなかった。その時、教会は、再臨使命の光を拒否したために、道徳的墮落を経験したのであったが、しかしその墮落は、全面的なものではなかった。諸教会は現代に対する特別な真理を拒否しつづけてきたために、ますますひどく墮落してしまった。しかし、『バビロンは倒れた。…その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者』と言うまでには、まだなっていない。彼女はまだあらゆる国民に飲ませてはいない。世俗と妥協する精神と、われわれの運命を決定する現代の真理に対する無関心とが、すべてのキリスト教国のプロテスタント諸教会内で力を得ている。こうした教会も、第二天使の厳粛で恐るべき告発のなかに含まれる。しかし、背教の活動は、まだその頂点に達していない。

聖書は、主の再臨の前に、サタンが『あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを』もって働き、『自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれ』ない者は、『偽りを信じるように、迷わす力』を受けるに至ると言っている (テサロニケ第二 2:9 - 11)。こうした状態になって、教会と世俗との結合がキリスト教国全体において完全に行なわれるときに、初めてバビロンの墮落は完全なものとなる。この変化は徐々に行なわれる。黙示録 14:8 の全面的成就是、まだ将来のことである。」(各時代の争闘下巻 91、92)

- a. そのとき、まだバビロンの中にいる人々は、どの緊急の召しを聞きますか（ヨハネの黙示録 18:4）。

「黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14:6 – 12 の三重のメッセージを拒否した結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後のメッセージである。そしてそれは、その働きを成し遂げる。『真理を信じないで議を喜んでいた』人々は、偽りを信じ、迷わず力に陥るままにされる（テサロニケ第二 2:12）。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、『わたしの民よ。彼女から離れ去』れという招きの声に耳を傾けるのである（黙示録 18:4）。」（各時代の 大争闘下巻 93）

- b. 「わが民」として言及され、またバビロンから出なさいとの召しの中で呼びかけられている個々人はだれですか（ヨハネによる福音書 10:16）。

「バビロンを構成する諸教会は、霊的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。この時代のための特別な使命をまだ悟っていない人々が多くいる。自分たちの現状に満足せず、もっと明らかな光を待ち望んでいる者が、少なくない。彼らは自分たちの所属する教会の中に、キリストの姿を見ようとしても見ることができない。こうした諸教会が、真理からますます遠く離れ、世俗といっそう密接に結合するにつれて、二つのグループの人々の相違は大きくなり、ついには分離しなければならなくなる。この上なく神を愛する人々は、『神よりも快樂を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者』たちとは、もはや関係を保つことができなくなる時が来る。」（同上 92、93）

- c. バビロンから逃げるようにとの召しは、なぜそれほど緊急なのですか（ヨハネの黙示録 18:5-8）。

「待ち望んでいる人々の上にそそがれていた光は、至る所に輝きわたった。諸教会の中で、幾らかでも光を持っている人々や、三重の使命を聞いてこれを拒まなかった人々は、呼び声に応じて、墮落した教会を離れた。」（初代文集 449）

- a. はっきりとした疑いの余地のない警告のメッセージの重要性を述べなさい (イザヤ書 58:1; コリント人への第一の手紙 14:7, 8)。

「黙示録 18 章は、真理を制限された言葉ではなく、大胆さと力をもって真理を提示すべき重要性を明らかにしている。…あまりにも第三天使のメッセージの宣布において遠回しな言い方をすることが多かった。」(伝道 230)

「神は見張り人が目を覚まし、決定的なメッセージを伝えて声を合わせ、はっきりとしたラッパの音をあげるよう意図しておられた。こうして民がみな自分の義務の持ち場に現われ、大いなる働きの中で自分の役割を果たすことができるためである。そのとき、大いなる力をもって天から下ってくるもう一人の御使の強くはっきりとした光が、その栄光で全地を満たすようになる。わたしたちは何年も遅れている。そして盲目のうちに立ち、神が燃えるともしびとしてミネアポリスの集会から出て行くようにと意図しておられたメッセージそのものの進展を妨げてきた人々は、自分たちの心を神のみ前にへりくだらせ、どれほど自分たちの思いの盲目と心のかたくなさがこの働きを遅らせてきたのかを見て、理解する必要がある。」(エルンスト・G・ワット 1888 年原稿 1070)

- b. イエスのどの熱心な訴えを、わたしたちは個人個人心に受け入れることができますか (ヨハネによる福音書 12:35, 36)。

「もう一人の御使が第三天使と声を合わせる。そして地はその栄光によって明るくされる。光は増し加わり、地のあらゆる国家へと輝き出る。それは燃える光として出て行くのである。そこには大きな力が伴い、ついには黄金の光線が、全地の面にいるあらゆる国語、あらゆる民族、あらゆる国民の上に降り注ぐ。あなたにお尋ねしたい。あなたはこの働きのために準備をするため、何をしているであろうか。あなたは永遠のために建てているだろうか。この御使はこのメッセージを世に伝えるために持っている人々をあらわしていることを覚えていなければならない。あなたはその民の中にいるだろうか?」(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 8 月 18 日)

個人的な復習問題

金曜日 6月19日

1. どのようにローマが、バビロン、淫婦どもの母の記述と合っているかを説明しなさい。
2. もう一人の御使によって表される神の真の栄光は何ですか。
3. なぜ第二天使のメッセージは繰り返されなければならないのですか。
4. 今日、イエスに真に従うほとんどの人はどこにいますか。
5. 今日わたしはどのように、神のみ働きを遅らせるものになるよりは、好ましい感化力となることができますか。

予告された終わり

暗唱聖句：「すると、御座にいますかたが言われた、『見よ、わたしはすべてのものを新たにする』。また言われた、『書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである』。」（黙示録 21:5）

推奨文献： 初代文集 451 - 474

「罪ののろいのために神の輝かしい創造における一つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる。」（各時代の希望上巻 13）

1. 七つの最後の災い

日曜日 6月21日

a. 神の裁きが地に注がれることに関して、何が明らかにされていますか（ヨハネの黙示録 15:1; 16 章）。

「わたしは、避難所を持っていない人びとの上に、最後の七つの災害がまもなくくだらうと見るのを見た。しかし世の人々は、それを水のしずくが降ってくるぐらいにしか考えなかった。それからわたしは、最後の七つの災害すなわち神の怒りの恐ろしい光景を見るのに耐える力が与えられた。わたしは神の怒りが非常に恐るべきものであるのを見た。そして、神が怒ってみ手をのばすか、またはあげるかなさるならば、世界の住民はあとかたもなくなってしまう。あるいは、彼らは不治のでき物に悩まされ、恐ろしい災害に苦しむ。そして彼らは救われることができずに災害に滅ぼされるのである。」（初代文集 139, 140）

b. どのように違った方法で、同じ光景が描写されていますか（エレミヤ書 25:30-33; ヨハネの黙示録 19:17-21）。

「悪人は恩恵期間の限界を越えた。頑強に拒まれてきた神のみ霊は、ついに取り去られた。彼らは神の恵みの守りを失って、悪魔に対する防備が全くない。その時サタンは、地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる。神の天使たちが人間の激情の激しい風を抑えるのをやめると、争いの諸要素がことごとく解き放たれる。全世界は、昔のエルサレムを襲ったものよりもっと恐ろしい破滅に巻き込まれる。」（各時代の争闘下巻 386）

- a. 黙示録の書は、どのようにキリストの再臨を描写していますか（ヨハネの黙示録 1:7; 6:15-17）。

「やがて、われわれの目は、東のほうにひきつけられた。それは、人間の手の半分ぐらいの大きさの、小さい黒雲が現われたからである。われわれはみな、これが人の子のしるしであることを知っていた。われわれはみな、その雲が、近づくにつれてますます明るく輝き、さらに輝きを増してついに大きな白い雲になるのを、厳粛な思いで黙って見ていた。雲の下のほうは火のように見えた。雲の上にはにじがあった。その周りでは、無数の天使たちが、この上なく美しい歌を歌っていた。雲の上には人の子が座しておられた。彼の髪の毛は白く波打って肩にかかっていた。彼の頭には、多くの冠があった。彼の足は火のように見えた。彼の右手には鋭いかまが、左手には、銀のラッパがあった。彼の目は火の炎のようで、彼の民を心の奥底までさぐった。そのとき、すべての者の顔は青ざめた。神に拒否された人々の顔は絶望で真っ青になった。そのとき、われわれは、みな、『だれが、その前に立つことができようか。わたしの着物には、しみがついていないだろうか』と叫んだ。すると天使たちは、歌うのをやめ、恐ろしい沈黙が、しばらく続いた。そして、イエスは、『手が清く、心のいさぎよい者が、その前に立つことができる。わたしの恵みは、あなたに対して十分である』と言われた。これを聞いてわれわれの顔は輝き、すべての者の心は、喜びにあふれた。天使たちは、ふたたび高らかに音楽をかなでて、歌いはじめた。雲はますます地上に近づいた。」（初代文集 64、65）

- b. そのとき、御使たちは何をしますか（マタイによる福音書 24:31; テサロニケ人への第一の手紙 4:16, 17）。

「罪のために神のかたちはそこなわれ、ほとんど消えてしまったが、キリストは、その失われたものを回復するためにこられた。キリストは、わたしたちの卑しい体を造り変えて、ご自身の栄光の体に似たものとしてくださる。一度罪に汚されてしまって美を失い、死ぬべき、朽ち果てるべきものとなった体が、完全な、美しい、不死のものとなる。…

天使たちは、『天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集める。』小さい子供たちは、天使たちに抱かれてきて、母親の腕に返される。長く死に別れていた友人たちは再会して、もう永久に別れることなく、喜びの歌をうたいながら、ともに神の都へと上っていく。」（各時代の犬争闘下巻 424、425）

- c. サタンはどこに置かれますか（ヨハネの黙示録 20:1, 2）。

「ここが、サタンと悪天使たちが、千年の間住むところとなる。サタンは、地球に制限されているから、他世界に近づいて、決して墮落したことのない者たちを試み悩ますことはできない。」（同上 442）

- a. サタンがつながれている 1000 年間に、聖徒たちは何をしますか (ヨハネの黙示録 20:4-6; コリント人への第一の手紙 6:2, 3)。

「第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行なわれる。使徒パウロは、この審判を、再臨に続いて起こる事件として指し示す。…ダニエルは、日の老いたる者がきて、『いと高き者の聖徒のために審判をおこなった』と言っている (ダニエル書 7:22) この時義人は、王、また祭司として支配する。…パウロが、『聖徒は世をさばく』と予見したのは、この時のことを指しているのである (コリント第一 6:2)。彼らはキリストと共に悪人を審き、その行為を法規の書すなわち聖書と照らし合わせ、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところに記録される。

サタンと悪天使たちも、キリストとその民によってさばかれる。パウロは、『あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をさささばく者である』と言っている (同 6:3) また、ユダは、『主は、自分たちの地位を守ろうとはせず、そのおるべき所を捨て去った御使たちを、大いなる日のさばきのために、永久にしばらくつきたまま、暗やみの中に閉じ込めておかれた』と言っている (ユダ 6)。」 (各時代の争闘下巻 444, 445)

- b. 1000 年の裁きの終わりに、何が起こりますか (ヨハネの黙示録 21:2; 20:7, 8)。

「千年の終わりに第二の復活がある。その時に、悪人はよみがえらせられる。そして、『記された審判』の執行を受けるために、神の前に現われる。…そしてイザヤは、悪人について、『彼らは囚人が土ろうの中に集められるように集められて、獄屋の中に閉ざされ、多くの日を経て後、罰せられる』と宣言しているのである (イザヤ書 24:22)。」 (各時代の争闘下巻 445) [筆者強調]

- c. 悪人たちの完全な最後はどうなりますか (ヨハネの黙示録 20:9; マラキ書 4:1)。

「きよめの火によって、悪人たちは根も枝もついに滅ぼされた。サタンが根であり、サタンに従う者たちが枝である。律法の刑罰は全部くんだり、正義の要求は果たされた。天と地はこれを見て、主の義を宣言する。」 (同上 460)

- a. 万物をふたたび新たにするという神の約束を述べなさい(ヨハネの黙示録 21:1, 5; 22:1, 2; イザヤ書 65:17)。

「あがないの働きは完成される。罪の充満していたところに神の恵みがかつと充満する。サタンが自分の働き場所として主張していたこの地上そのものも、ただあがなわれるばかりでなく、また高められるのである。罪ののろいのために神の輝かしい創造における一つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる。神のみ子が人のかたちをとり、栄光の王が生活し、苦難を受け、死なれたこの地上—ここに神が万物を新たにされる時、『神の幕屋が人とともにあり、神が人とともに住み、人は神の民となり、神みずから人とともにいま』すのである(黙示録 2:3)。そして永遠にわたって、あがなわれた者は、神の光の中を歩むとき、言いあらわしようのない神の賜物であられるインマヌエル—神われらと共にいます—について神を賛美するのである。」(各時代の希望上巻 13)

- b. 新地においては、何が違いますか(イザヤ書 65:21-25; ヨハネの黙示録 21:4)。

「天のふんいきの中では、苦痛は存在することができない。もはや涙はなく、葬式の行列も喪章もない。…」

神の都には『夜は、もはやない。』休みの必要な者や、休みをほしいと思う者はだれもない。神のみこころを行ない、そのみ名を賛美するのに、疲れることがない。いつも朝のすがすがしさを感じ、それは決して尽きることがない。「あかりも太陽の光も、いらぬ。主なる神が彼らを照らされるからである(黙示録 22:5)。太陽の光線の代わりに、目にまぶしくない光が与えられるが、その明るさは今の真昼の輝きよりもはるかにまさっている。神と小羊の栄光は、衰えることのない光をもって神の都に満ちあふれる。贖われた者たちは、太陽のない、しかもとこしえの昼の光の中を歩むのである。」(各時代の大争闘下巻 464, 465)

「聖書の中では、救われた者の嗣業が『ふるさと』と呼ばれている(ヘブル 11:14-16 参照)。そこでは天の大牧者イエスが、ご自分の群れを生ける水の源に連れて行ってくださる。いのちの木は月ごとにその実を結び、その葉は万民のために用いられる。水晶のように透きとおった川が永遠に流れ、そのそばにはゆれ動く木々が、主に贖われた者たちのために備えられた道の上に影を投じている。広々とひろがった平野の果ては、美しい丘となって盛りあがり、神の山々が高くそびえ立っている。この平和な平原に、また生ける流れのほとりに、久しい年月の間旅人であり寄留者であった神の民が、そのすまいを見いだすのである。」(同上 463)

- a. イエスはどの言葉をもって黙示録の預言を読む人々を励まそうとされましたか(ヨハネの黙示録 22:7, 12-14)。

「主ご自身がこの書に含まれている奥義を、そのしもべに表された。そして主は、その奥義がすべての人々に公開されて研究されるようにと意図されている。その真理は、ヨハネの時代に生きていた人々と同様に、この地上歴史の最後の時代に住む人々にもあてられている。この預言に描かれている場面のあるものは過去に起こったものであり、あるものは今起こりつつある。またあるものはやみの権力と天の君との大争闘の終結を見させ、またあるものは新しくされた地に住むあがなわれた者たちの勝利と喜びを表している。

黙示録に書かれているすべての象徴の意味を説明できないからといって、そこに含まれている真理の意味を知るために、この書を探る努力をしても無益だと思っはならない。ヨハネにこれらの奥義を表されたかたは、真理の熱心な探求者に天の事柄を前もって知らせて下さるのである。真理を受けるために心を開いている人たちは、その教えを理解できるようになり、『この預言の言葉を……聞いて、その中に書かれていることを守る者たち』に約束されている祝福を与えられるのである。」(患難から栄光へ下巻 288、290)

- b. キリストは、ご自分を通して永続的な命と平和を見出すよう、どのようにわたしたちを招いておられますか(ヨハネの黙示録 22:17; イザヤ書 55:1; ヨハネによる福音書 7:37, 38)。

「かわいた魂に対するキリストの叫びはいまなお出されており、それはあの祭の最後の日に宮で聞いた人々に対するよりもっと強い力でわれわれに訴えている。泉はすべての人のために開かれている。疲れ果てた人々に清新な力を与える永遠の生命の水が提供されている。イエスはいまもこう叫んでおられる。『だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。』」(各時代の希望中巻 235)

個人的な復習問題

金曜日 6月26日

1. どのように災いが世界歴史の終わりをもたらしますか。
2. キリストが再臨される時、だれが立つことができますか。
3. 1000年のあいだの裁きの目的を述べなさい。
4. 何が、贖われた者の最終的な家郷になりますか。
5. わたしは心から神の永遠の王国の一員になりたいと望んでいるでしょうか。

第一安息日献金



安息日 2026 年 4 月 4 日

イタリヤフィールドの本部のためにイタリヤにおけるこの感化力センターの有用性を拡張すべき時です。(4 ページ)



安息日 2026 年 5 月 2 日

世界ミッション

至る所で災害が増えています。主はわたるの中にある尊い魂は今日現代の真理を必要としています—わたしたちは彼らにそれを提供する助けができます。(25 ページ)



安息日 2026 年 6 月 6 日

プラハの祈りの家

こ起きて、改革の歴史で有名な都市に神の栄光のために記念碑を立てましょう。(51 ページ)